ナシト見ユルトキハ原告ノ請求ヲ却下ス可シ

證書訴訟ヲ許ス可カラサルトキ殊ニ適法ノ證據方法ヲ以テ原告ノ義務タル證據ヲ申出テス又ハ完全ニ之ヲ擧ケサル場合ニ於テハ被告カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ法律上ノ理由ナキ異議若クハ證書訴訟ニ於テ許ササル異議ノミヲ以テ訴ニ對シ抗辯シタルトキト雖モ此訴訟ニ於テハ其訴ヲ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

○證書訴訟トシテ許スヘキモノニ非ストノ理由ヲ以テ其訴ヲ却下セスシテ請求ヲ棄却シタルハ不當ナリトス

第四百九十條　證書訴訟ニ於テ適法ノ證據方法ヲ以テ被告ノ義務タル證據ヲ申出テス又ハ完全ニ之ヲ擧ケサルトキハ被告ノ異議ハ證書訴訟ニ於テ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

第四百九十一條　主張シタル請求ヲ爭ヒタル被告ニハ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル總ノ場合ニ於テ其權利ノ行使ヲ留保ス可シ

判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ依リ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得

留保ヲ掲ケタル判決ハ上訴及ヒ强制執行ニ付テハ之ヲ終局判決ト看做ス

○爲替訴訟ニ留保ヲ掲ケタル判決ハ確定ノ終局判決ト同シク其執行ヲ爲スヘキモノニテ假執行ト同視スヘカラス

○爲替訴訟ニ於テ請求ヲ爭ヒタル被告ニ敗訴ヲ言渡シ權利行使ノ留保ヲ掲ケタルトキハ其判決ハ普通ノ終局判決ナリ

三二　四　六一

二六　二　一五五

三四　一〇　二

○爲替訴訟ニ於テ被告ニ權利ノ行使ヲ留保スル旨ノ判決アリタルトキ被告カ該判決ノ送達ヨリ一个年內ニ期日指定ノ申請ヲ爲サヽルモ訴ヲ取下ケタルモノト看做スヘキモノニ非ス

第四百九十二條　被告ニ權利ノ行使ヲ留保シタルトキハ訴訟ハ通常ノ訴訟手續ニ於テ繫屬ス

此手續ニ於テ證書訴訟ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯ハルルトキハ前判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ却下シ且其生セシメタル費用ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ原告ニ言渡シ又前判決ニ基キ被告ヨリ支拂ヒ又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ申立ニ因リ原告ニ言渡ス可シ

右手續ニ於テ原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ闕席判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百九十三條　第四百二十六條及ヒ第四百二十七條ノ規定ハ證書訴訟ニ之ヲ適用セス

第四百九十四條　商法ニ規定シタル手形ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張スルトキハ爲替訴訟トシテ以下二條ニ掲クル特別ノ規定ヲ適用ス

○商法ニ規定シタル手形ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張スルトキハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ訴狀ニ掲クルヲ要ス若シ此手續ヲ爲サヽルニ於テハ民事訴訟法第四百九十五條ニアル特別規定即チ支拂地ノ裁判所ニ起訴スルコトヲ得ルトノ規定ヲ適用スルコトヲ得ス

第四百九十五條　爲替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

二六　二　二八三

數人ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヲ受ク可キトキハ支拂地ノ裁判所又ハ被告ノ各人カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所各之ヲ管轄ス

第四百九十六條　訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ揭クルコトヲ要ス

訴ノ許ス可キモノナルトキハ直チニ口頭辯論ノ期日ヲ定ム

口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ少ナクトモ二十四時ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第六編　强制執行

第一章　總則

○從タル債務者カ負擔辨償ノ爲メ其抵當物件ヲ公賣セラルヽコトヲ認諾シタル事實アルニ於テハ直チニ公賣ニ付スルモ妨ケナシ必スシモ公賣着手以前ニ公式的ノ通知ヲ爲シ承諾ヲ得ルニ非サレハ其公賣ハ無效ナリト云フヲ得ス　二七

○公正證書ノ執行力アル正本ニ基ク强制執行ニ對スル請求ニ關スル異議ノ訴ニ就テハ其異議ノ原因カ公正證書作成以前ニ生シタルト其以後ニ生シタルトヲ問フノ要ナシトス　〇　二四〇

○執行裁判所カ强制執行ニ關シ漸次數箇ノ命令ヲ發シタル場合ニ於テハ强制執行基ノヽ命令ニシテ取消サルヽ以上ハ其以後之ニ續キテ發セラレタル命令ノ如キハ從ヒテ效力ヲ失フヘキモノトス　三　六　二六

○執行文ヲ付與スルニ付キ裁判所書記ハ其判決ノ效力今尙ホ存スルヤ否ヤト云フ如キ實質上ニ關スル事項ヲ審査スル權限ヲ有スルモノニ非ス　三四　五　四

第四百九十七條　强制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス　三四　三　三四

第四百九十八條　判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ滿了前ニハ確定セサルモノトス

判決ノ確定ハ故障若クハ上訴ヲ其期間內ニ申立若クハ提起スルニ因リ之ヲ遮斷ス

第四百九十九條　原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記錄ニ基キ之ヲ付與ス

訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス

判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間內ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ以テ足ル

第五百條　原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ一時停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ强制執行ヲ爲ス可キコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立テシメテ其爲シタル强制處分ヲ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テシメスシテ爲ス强制執行ノ停止ハ其執行ニ因リ假フコト能ハサル損害ヲ生

ス可キコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ許ス

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百一條　左ノ判決ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一　認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決

第二　證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決

第三　同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ本案ニ付キ言渡シタル第二又ハ其後ノ闕席判決

第四　假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決

第五　養料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但訴ノ提起後ノ時間及ヒ其提起前最後ノ三个月間ノ爲ニ支拂フ可キモノナルトキニ限ル

第五百二條　左ノ場合ニ於テハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一　總テノ住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取、明渡、使用、占據若クハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關シ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第二　占有ノミニ係ル訴訟

第三　雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一个年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

第四　左ニ掲ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若クハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

イ　賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

ロ　旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル手荷物、金錢又ハ有價物

第五　此他財產權上ノ請求ニ關シ金額又ハ價額ニ於テ貳拾圓ヲ超過セサル訴訟但其物ノ價額ニ付テハ第三條乃至第六條ノ規定ヲ適用ス

第五百三條　前二條ニ掲ケタル外左ノ場合ニ於テハ財產權上ノ請求ニ關スル判決ニ限リ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一　債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テント申立ツルトキ

第二　債權者カ判決ノ確定ト爲ルマテ執行ヲ中止セハ償ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受ク可キコトヲ疏明スルトキ

第五百四條　債務者カ判決ノ確定ト爲ル前ニ判決ヲ執行セハ回復スルコトヲ得サル損害ヲ受ク可キコトヲ疏明シタルトキハ其申立ニ因リ左ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一　第五百一條ノ場合ニ於テハ判決ヲ假ニ執行ス可カラサルコト

第二　第五百二條及ヒ第五百三條ノ場合ニ於テハ債權者ノ假執行ノ申立ヲ却下スルコト

第五百五條　總テノ場合ニ於テ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ債權者豫メ保證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ得

債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申出テサルトキハ債務者ノ申立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可シ

第五百六條　假執行ニ關スル申立ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲ス可シ

第五百七條　假執行ニ付テノ裁判ハ判決主文ニ之ヲ掲ク可シ

第五百八條　職權ヲ以テ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ場合ニ於テ假執行ニ付テノ裁判ヲ爲サザルトキ又ハ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ債權者ノ申立ヲ看過シタルトキハ第二百四十二條及ヒ第二百四十三條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ爲スコトヲ得

第五百九條　第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシモノ又ハ條件附ノ假執行ノ宣言アリタルモノハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ限リ口頭辯論ノ進行中ニ爲シタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ上級審ニ於テ其判決ニ假執行ノ宣言ヲ付ス可シ

第五百十條　本案ノ裁判又ハ假執行ノ宣言ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スル判決ノ言渡アルトキハ假執行ハ其廢棄若クハ破毀又ハ變更ヲ爲ス限度ニ於テ效力ヲ失フ

假執行ノ宣言アリタル本案ノ判決ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スルトキハ判決ニ基キ被告ノ支拂又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ原告ニ言渡ス可シ

第五百十一條　第二審ニ於テハ申立ニ因リ先ツ假執行ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可シ

口頭辯論ノ延期ニ付テノ第四百十條ノ規定ハ此場合ニ於テハ之ヲ適用セス

第二審ニ於テ假執行ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百十二條　假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ故障ヲ申立又ハ上訴ヲ起シタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用ス

第五百十三條　本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得

保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付テハ求ニ因リ證明書ヲ付與ス可シ

第五百十四條　外國裁判所ノ判決ニ因レル强制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ又普通裁判籍ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

第五百十五條　執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲ス可シ

執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ

第一　外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ證明セサルトキ

第二　本邦ノ法律ニ依リ强テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ執行セシム可キトキ

第三　本邦ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所カ管轄權ヲ有セサルトキ

第四　敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セサリシトキ但訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ又ハ法律上ノ共助ニ依リ本邦ニ於テ本人ニ送達セサリシトキニ限ル

第五　國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ

第五百十六條　强制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與ス

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條　執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス

其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押ス可シ

第五百十八條　執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限リ之ヲ付與ス

判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繫ル場合ノ外他ノ條件ニ繫ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ限リ執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

第五百十九條　執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限ル

此承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載ス可シ

○民事訴訟法第五百十九條ハ債務發生後其債務者ノ承繼人タリシ者ニ對シ執行力アル正本ヲ付與スルヲ得ル法意ナリ故ニ隱居者カ負フタル隱居後ノ債務ニ關スル執行力アル正本ハ遡テ曩キニ家督ヲ相續シタル者ニ對シ之ヲ付與スヘキ限リニ在ラス

○民事訴訟法第五百十九條ノ債務者ノ一般ノ承繼人トハ債務者カ其債務者タル地位ニ立チ敗訴ノ判決ヲ受ケタル後其債務者ノ承繼ヲ爲シタル者ヲ指稱ス

二九　七　一

三一　一〇　三

第五百二十條　第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テハ執行力アル正本ハ裁判長ノ命令アルトキニ限リ之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

右命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス可シ

第五百二十一條　第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ニ依リ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキハ債權者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得

第五百二十二條　執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立テタルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス

裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ强制執行ヲ續行ス可キヲ命スルコトヲ得

○執行文付與ニ對スル債務者ノ異議申立ハ單ニ其付與ニ關スル形式上ノ欠缺ヲ理由ト爲スヘキモノニシテ實體ニ關スル主張ハ之カ正當ノ理由トナラス

○執行文付與ノ異議申立ニ對シテハ決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘキモノニシテ判決ヲ爲スヘキモノニ非ス

○執行文付與ニ對スル債務者ノ異議ニ付テハ口頭辯論ヲ經テ裁判ヲ爲スヘキモノニシテ民事訴訟法上此裁判ニ對シ抗告ヲ許スノ明文ナシ

三三　三〇　二九

四　一〇　一一

一〇九　六〇　一九

第五百二十三條　債權者カ執行力アル正本ノ數通ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限リ之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令ノ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

相手方ヲ審訊セスシテ執行力アル正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知ス可シ

正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

第五百二十四條　執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ

第五百二十五條　執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄內ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域內ニ及フモノトス

第五百二十六條　債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ數通ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス

第五百二十七條　債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ

第五百二十八條　強制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限リ之ヲ始ムルコトヲ得

判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行カ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行文ニ可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ强制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲ强制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

第五百二十九條　請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿了後ニ限リ强制執行ヲ始ムルコトヲ得

若シ執行カ債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限リ其執行ヲ始ムルコトヲ得

第五百三十條　豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シテ爲ス强制執行ハ其上班司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後ニ限リ之ヲ始ムルコトヲ得

此官廳ハ債權者ノ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ付與ス可シ

第五百三十一條　强制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限リ執達吏之ヲ實施ス

債權者ハ强制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

第五百三十二條　執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其責ニ任ス

○債權者カ執行力アル正本若クハ假差押命令ノ正本ヲ執達吏ニ交付シ執行ノ委任ヲ爲シタルトキハ執達吏ハ獨立シテ其職務ヲ執ルヘキモノニ

シテ債權者ノ指揮ニ從フヘキモノニ非ス從テ違法ノ手續ニ因リ損害ヲ被ムラシメタルトキハ執達吏ニ於テ第一ニ其責ニ任スヘキモノトス　三一　三

○執達吏カ其差押タル物件ニ對シ相當ノ處分ヲ爲サヽルカ爲メ損害ヲ生スルニ至リタルトキハ第一ニ其責ニ任セサルヘカラサルハ當然ナリ　三二　三

（同主旨）

執達吏カ差押ニ關シ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ損害ヲ生セシメタルトキハ執達吏第一ニ其責ニ任スヘキモノトス　三二　三

第五百三十三條　債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルトキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作リ之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得　三三　三

○執達吏ヨリ差出スヘキ受取證書ニハ一定ノ書式ナキヲ以テ執達吏ノ肩書ナク且ツ受取書ト爲サスシテ預リ書ト爲シタルモ之ヲ執達吏ヨリ差出シタル領收證書ノ效ナシト謂フヘカラス　二六　二

第五百三十四條　執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス　二六　二

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ　二六　二

第五百三十五條　執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證ヲ其債務者ニ交付ス可シ　二六　二

債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルルコト無シ　二六　二

第五百三十六條　執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ捜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス　二六　二

抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用ヰ且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ　二六　二

第五百三十七條　執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ　二六　二

第五百三十八條　強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記錄ノ閲覽ヲ許シ及ヒ記錄中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ要ス　二六　二

第五百三十九條　夜間及ヒ日曜日竝ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限リ執行行爲ヲ爲スコトヲ得　二六　二

右許可ノ命令ハ強制執行ノ際之ヲ示ス可シ　二六　二

○民事訴訟法第五百三十九條ノ規定ハ日曜日祝祭日及ヒ夜間ト雖モ債務者ニ於テ拒マサルトキハ裁判所ノ許可ナキモ執行行爲ヲ爲シ得ルノ精神ナリ

第五百四十條　執達吏ハ各執行行爲ニ付キ調書ヲ作ル可シ

此調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　調書ヲ作リタル場所、年月日

第二　執行行爲ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ略記

第三　執行ニ與カリタル各人ノ表示

第四　右各人ノ署名捺印

第五　調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閲覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトノ開示

第六　執達吏ノ署名捺印

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載ス可シ

第五百四十一條　執行行爲ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第百三十九條、第百四十條及ヒ第百四十五條乃至第百四十九條ノ規定ヲ準用シテ其調書ノ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シ

若シ強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載ス可シ

第五百四十二條　執行行爲ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

第五百四十三條　此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行爲ノ處分又ハ其行爲ノ共力ハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス

執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條　強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命ヲ發スル權ヲ有ス

執達吏カ執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行爲ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手數料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

○執達吏ノ行爲ニ對シ當事者一方ヨリ異議ノ申立ヲ爲シ其行爲ノ取消ヲ命セラルヽコトアルモ執達吏ハ民事訴訟法第八十三條ノ如キ場合ノ外ハ利害ノ關係ナキヲ以テ之ニ對シ不服ヲ唱ヘ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

第五百四十五條　判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ

右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ遲クトモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結後ニ其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限リ之ヲ許ス

二五三一四

債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

○確定ノ請求ニ關スル異議ハ訴ヲ以テ之ヲ主張スルヲ得ルモノトス然ルニ此訴ニ對シ執行命令取消ヲ提起スヘキモノニ非スト言渡シタルハ不法ナリ

○民事訴訟法第五百四十五條ノ規定ハ判決ニ依リ確定シタル請求ノ實體ニ付キ口頭辯論ノ終局後ニ至リ異議ノ原因發生シタル時ニ限リ訴訟ヲ許シタルモノニシテ執行上ノ手續ニ過キサル場合ニ於テ適用スルヲ得ス

○執行異議ノ原因トスル一ノ目的カ異議者ノ曾テ起シタル訴訟ノ進行中ニ消滅シタルトキハ民事訴訟法第五百四十五條第二項ニ依リ判決確定後之ヲ主張スルヲ得ス而シテ當事者ノ一方カ契約ノ履行ヲ拒ミタルカ爲メ遂ニ訴訟起リ從テ期限ヲ經過シ或事柄ノ成就ヲ妨ケタルトキハ契約ノ履行ヲ拒ミタル者ニ於テ其條件既ニ成就シタルト同一ノ責ニ任セサルヲ得ス

○判決確定後ニ生シタル事項ヲ以テ訴求ノ理由トスルトキハ確定判決ニ對スル異議ノ訴ヲ提起スヘキモノトス

○民事訴訟法第五百四十五條ハ單ニ執行費用ニ關シ異議アル場合ニ適用

二六　二　三〇五
二七　〇　七九
二八　〇　三一〇
二九　二　八

スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第五百四十五條ハ强制執行ノ方法若クハ其手續等ニ關スル形式上ノ異議ヲ主張スル場合ニ適用スヘキモノニ非スシテ確定シタル請求ニ關スル實體上ノ異議ヲ主張スル場合ニ限リ適用スヘキモノタリ

○民事訴訟法第五百四十五條同第五百四十六條ニ規定シアル異議ノ訴ハ之ヲ同一ニ看做シ之ニ對スル裁判モ亦同一ニ執行處分ノ取消若クハ變更ヲ爲シ得ヘキ法意ナリトス

第五百四十六條　前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文付與ノ際證明シタリト認メラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭ヒ又ハ認メラレタル承繼ヲ爭フトキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

○民事訴訟法第五百四十五條同第五百四十六條ニ規定シアル異議ノ訴ハ之ヲ同一ニ看做シ之ニ對スル裁判モ亦同一ニ執行處分ノ取消若クハ變更ヲ爲シ得ヘキ法意ナリトス

第五百四十七條　强制執行ノ續行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケラルルコト無シ

然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疏明

二九　七　二六
三三　六　七五
三三　六　七五

アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ强制執行ヲ繼行ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得

急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ强制執行ヲ續行ス

第五百四十八條　受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ揭ケタル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得

判決中前項ニ揭クル事項ニ限リ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

右裁判ニ對スル不服ニ付テハ第五百十一條ノ規定ヲ準用ス

第五百四十九條　第三者カ强制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其强制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張ス可シ

右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス

右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

强制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得

○强制執行ノ目的物タル係爭物件ニ對シ第三者カ所有權ヲ主張スル訴訟ハ民事訴訟法第五百五十八條第六百八十三條ニ關係ナクシテ同法第五百四十九條ニ依リ起訴スヘキモノトス　二六　三　二七

○强制執行ニ對スル第三者ノ異議ノ訴ハ既ニ開始セラレタル强制執行行爲ノ取消ヲ求ムルヲ目的トスル訴訟法上ノ訴ニシテ民法上ノ訴ニ非サルカ故ニ其執行ニシテ未タ完結セサル間ハ其目的物カ依然執行ヲ開始セシメタル者ノ手裡ニ現存スルト否トニ拘ハラス强制執行ノ取消ヲ命シ得ヘキモノトス　二九　二　一〇七

○債務者ノ承繼人ニ非サルヲ理由トシテ强制執行ノ取消ヲ求ムル訴ハ執行文付與ニ對スル異議ニ非スシテ强制執行ニ對スル異議ノ訴ナリ　三三　一〇　七

○執行參加ノ訴ニ於テ債務者ヲ共同被告ト爲ストキハ强制執行ニ對スル消極的異議ノ訴ニ積極的所有權確認訴訟ヲ包含スルモノト推定セラル而シテ執行參加ノ當事者雙方ヲ共同被告ト爲シ所有權確認ノ主參加訴訟ヲ提起スルハ執行參加ノ當事者間ニ爭アル所有權ノ確認ニ付キ自己ニ所有權アルコトヲ確認セシメントスルモノナルヲ以テ此主參加訴訟

ハ適法ナリトス

第五百五十條　強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限スヘシ

第一　執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本

第二　執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本

第三　執行ヲ免カルル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ證明書

第四　執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書

○強制執行ヲ停止スルハ其執行ニ因リ他日償フコト能ハサル損害ヲ生スヘキ虞アルカ爲メ之ヲ豫防スルニ外ナラス從テ保證ヲ立テシメ強制執行ヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合相手方ヨリ更ニ保證ヲ立テ執行停止ヲ申請スルモ之ヲ許容スヘキ法規ナキニ依リ其申請ハ採用スヘキモノニ非ス

第五百五十一條　前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲモ取消ス可ク第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可ク第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行爲ノ取消ヲ命セサルトキニ限リ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシムヲ可シ

三四
九
二四
三〇
一〇
四

第五百五十二條　強制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルトキハ強制執行ハ遺産ニ對シ之ヲ續行ス可シ

債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行爲ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラサルトキ又ハ相續人ノ所在明カナラサルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺産又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ

第五百五十三條　強制執行ノ開始後ニ戸主タリシ債務者カ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルトキハ此變更ノ生セシ當時債務者ノ所持シタル財産ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス

第五百五十四條　強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限リ債務者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツ可シ

強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ其費用ハ之ヲ債務者ニ辨濟ス可シ

第五百五十五條　執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

第五百五十六條　豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍艦ニ對シ兵營及ヒ軍事用廳舍又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス

囑託ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

第五百五十七條　外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ囑託ス可シ

外國駐在ノ本邦領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑託ス可シ

第五百五十八條　強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

○假處分決定ニ對シ不服ヲ申立ツルトキハ民事訴訟法第七百四十四條第一項及ヒ第七百五十六條ニ依リ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモ同第五百五十八條ニ從ヒ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第五百五十九條　強制執行ハ左ノ諸件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第一　抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

第二　執行命令

第三　訴ノ提起後受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲シタル和解

第四　第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解

第五　公證人カ其權限內ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作リタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作リタル證書ニシテ直チニ强制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

第五百六十條　前條ニ揭ケタル債務名義ニ因レル强制執行ニハ第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條、第五百六十二條ノ規定ニ依リ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十一條　執行命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

請求ニ關スル異議ハ執行命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限リ之ヲ許ス

執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際到來シタリト認メタル承繼ヲ爭フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄ス但其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起ス可シ

第五百六十二條　公證人ノ作リタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス

執行文付與ニ關スル異議ニ付テノ裁判及ヒ更ニ執行文付與ニ付テノ裁判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス

執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ債務者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

第五百六十三條　本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス

第二章　金錢ノ債權ニ付テノ强制執行

第一節　動產ニ對スル强制執行

第一款　通則

○法律ハ一家ノ家族カ財産ヲ所有スルヲ禁セス故ニ家族ノ所有財産タルコトノ明カナル場合ニハ戸主ノ債務ノ爲メ漫ニ之ヲ差押フルヲ得ス　二七　〇　一九五

○不適法ナル執行行爲ニ就テハ法律上差押物ノ引渡完結期限アルヘキ謂レナキヲ以テ原裁判所カ執達吏ノ手中ニ差押物件ノ存在スル限リハ命令ノ完結ニ非スト判示スルモ之ヲ不法ト爲スヲ得ス　二八　〇　三八二

○執達吏カ有體動産ヲ差押ヘ之ヲ保管スルハ債權者ノ委任ニ基クモノナリト雖モ固ト是レ法律ノ規定ニ從ヒ其職務上當然爲スヘキ義務ニ屬スル事柄ニシテ普通ノ代理關係ヲ以テ論スヘキモノニ非サルノミナラス犯罪行爲ハ委任事項ノ範圍以外ナルカ故ニ執達吏ノ犯罪行爲ニ付テハ債權者其責ニ任セス　三三　六　六八

○一旦適法ニ差押ヲ爲シタルトキハ縱令執達吏カ其占有ヲ失ヒ又ハ封印等ヲ除去スルコトアルモ苟モ任意ニ之ヲ爲シタルニ非サル以上ハ其效力ハ決シテ消滅スルモノニ非ス　三四　九　四六

○差押ハ强制執行ノ目的タル物件又ハ權利ノ競賣換價若クハ轉付ヲ爲ス爲メノ强制執行上ノ一手續ニ過キサルモノニシテ差押債權者ノ爲メニ特ニ民法上ノ物權若クハ債權ヲ生スルモノニ非ス　三四　一　一六

第五百六十四條　動産ニ對スル强制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ强制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノヽ外ニ及ホスコトヲ得ス

差押フ可キ物ヲ換價スルモ强制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ强制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十五條　第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疎明アリタルトキハ裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命ス可シ但此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二款　有體動産ニ對スル强制執行

○動産引渡調書ハ差押命令ニ關シ執達吏ノ所爲ノ適法ナルコトヲ明確ニスル爲メノモノナルカ故ニ其調書中執達吏ノ所爲カ偶〻不適法ナルコトアルトキハ之ヲ證明スルノ證據ト爲ルヘキモ調書ノ無效ヲ惹起スル理ナシ　二八　〇　三八二

第五百六十六條　債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲スヘシ

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ

限リ其效力ヲ生ス

執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知スル可シ

○動產ノ差押ハ執達吏ニ其占有ヲ移シ其使用ヲ禁止スルヲ以テ當然ノ結果トス

第五百六十七條　前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

第五百六十八條　果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一个月內ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

蠶ハ其多分カ繭ヲ成造スル爲メ揚リ蠶ト爲リタル後ニ非サレハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第五百六十九條　差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及フモノトス

第五百七十條　左ニ揭クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一　衣服、寢具、家具及ヒ厨具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可カラサルトキニ限ル

第二　債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一个月間ノ食料及ヒ薪炭

第三　技術者、職工、勞役者及ヒ穩婆ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル物

第四　農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收獲マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農產物

第五　文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ敎育場敎師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物竝ニ身分相當ノ衣服

第六　文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ敎育場敎師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

第七　藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品

第八　勳章及ヒ名譽ノ證標

第九　實印其他職業ニ必要ナル印

第十　神體、佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

第十一　系譜

第十二　債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

第十三　債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍

然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ揭ケタル物ヲ除ク外之ヲ差押フルコトヲ得

第五百七十一條　差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス可シ若シ此カ爲ニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシムル可シ

第五百七十二條　執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可シ

第五百七十三條　競賣ス可キ物ノ中ニ高價ノモノ有ルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲ

シテ其評價ヲ爲サシム可シ

第五百七十四條　差押金錢ハ之ヲ債權者ニ引渡ス可シ

執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十五條　差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス但差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ債務者カ競賣ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ不相應ノ費用若クハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危害ヲ避ケン爲メ競賣ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十六條　競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

競賣ノ日時及ヒ場所ハ公告ス但其公告ニハ競賣ス可キ物ヲ表示ス可シ

第五百七十七條　最高價競買ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス

最高價競買人競賣條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競賣期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ヲ競賣ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス可シ其高キトキハ剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百七十八條　競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ之ヲ止ム可シ

第五百七十九條　執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十條　金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サス其實價マテニ競買ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第五百八十一條　執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ競賣ス可シ

○債權者カ其債務者ニ屬スル有價證券ヲ第三者ヨリ取立ツルニ當リ民事訴訟法第五百八十一條ニ依リ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒ競賣シタルトキニ於テ強制執行ハ終了スヘキモノトス

第五百八十二條　有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十三條　無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十四條　土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收獲ヲ爲サシムル權利アリ

ハ差押ヘタル蠶ノ競賣ハ全ク繭ト爲リタル後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス

第五百八十五條　差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲ス可キ旨又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命スルコトヲ得

第五百八十六條　執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ノ閲覽ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ求メタ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押フ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作リ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ法律上移轉ス

假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第五百八十七條　前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

第五百八十八條　適當ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ相當ノ命令アランコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

第五百八十九條　民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

○執行力アル正本ニ因ラスシテ爲ス競賣金ノ配當要求ハ債務者ノ財産中他ニ差押フヘキモノナキカ又ハ其財産アルモ之カ辨濟ニ不足ヲ生スル場合ニ限ルモノトス

○民事訴訟法第五百八十九條ニ所謂民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者トハ民法上優先權ヲ有スル者ノミナラス普通ノ債權者モ亦之ヲ包含スルモノトス

第五百九十條　前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

第五百九十一條　第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達吏ニ申立ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第五百九十二條　配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十三條　賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其賣得金ヲ供託ス可シ

數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其事情ヲ執行裁判所ニ屆出ツ可ク其屆書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ

第三款　債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル强制執行

○債務者ハ第三債務者ヨリ金錢ヲ支拂ヒタルトキ自己ノ債務ノ支拂ヲ爲シタルモノト看做シ其義務ヲ免カレ得ヘキモ支拂ヲ受ケタル差押債權者カ其取立ヲ屆出スシテ他ニ配當要求ヲ爲ス債權者ノ存スルニモ拘ハラス自己ノ債權ニ宛テ辨濟ヲ受ケタルモノト云フカ如キハ固ヨリ之ヲ採用スルヲ得ス

○同一ノ債權ニ對シ二人以上ノ債權者カ逐次差押命令ヲ受クルトキハ其前後ヲ問ハス等シク其債權差押ノ效果ヲ生ス而シテ其內ノ一名カ取立命令ヲ得タルトキハ他ノ者ハ之ニ對シ配當要求ヲ爲シ得ルモ轉付命令ヲ得タルトキハ何等ノ要求ヲ爲シ得サルモノトス

第五百九十四條　第三者(第三債務者)ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノノ强制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百九十五條　執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所若シ此區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル區裁判所管轄權ヲ有ス

第五百九十六條　債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十七條　差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

第五百九十八條　金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲ス可カラサルコトヲ命ス可シ

差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ

差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

○差押命令ハ債務者ニ執行力アル正本ヲ送達シタル後ニ非サレハ第三債務者ニ對シ有效ニ之ヲ發スルコトヲ得ス

第五百九十九條　抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ

此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ併合スルコトヲ得

裁判所ハ義務ヲ負フタル不動產ノ所有者(第三債務者)ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲ス可シ

第六百條　差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アランコトヲ申請スルコトヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百一條　支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

○債權ノ轉付ハ債務ノ存在スルトキニ限リテ法律上其效ヲ有ス故ニ既ニ辨濟ヲ受ケタル證書ヲ轉付スルモ何等ノ效力ヲ生セス

○債權ノ轉付ヲ受ケタル者ハ其債權者ノ權利ヲ承繼シ即チ被承繼者ノ地位ニ代リタルモノナリ故ニ被承繼者カ債務者ニ對シ負フ所ノ債務アルトキハ縱令轉付ノ債權ニ關係ヲ有セサルモ被承繼者カ其相殺ノ請求ヲ拒ミ得サルト同シク承繼者モ其請求ニ應スルノ義務アリ

（同主旨）

差押債權者ハ債權ノ轉付ニ因リ債權讓受人ノ地位ヲ得ルモノナレハ第三債務者ハ自己ノ債權者ニ對抗シ得ヘカリシ權利ヲ差押債權者ニ向テ主張スルコトヲ得

○債權轉付ノ命令ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ差押債權者ニ轉付スルノ效力ヲ生スルモノナレハ他ノ債權者ヨリ配當要求アリタル後ハ此命令ヲ爲スヘキモノニ非ス

第六百二條　取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ得其制限シタル部分ニ限リ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス

右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ

第六百三條　手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

第六百四條　俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス

第六百五條　職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ增俸ニ因ル收入ニモ亦及フモノトス

第六百六條　債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ强制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得

第六百七條　第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金錢債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル效力ノミヲ有ス

第六百八條　債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ屆出ツ可シ

第六百九條　差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間內ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメンコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第一　債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度竝ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度
第二　債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其種類
第三　債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者隙述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

第六百十條　債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者丙國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

第六百十一條　債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス

第六百十二條　債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但此カ爲メ其請求ヲ害セラルルコト無シ

此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其贈本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

第六百十三條　差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ繫リ若クハ他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得

債務者內國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

第六百十四條　有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル强制執行ハ以下數條ノ規定ヲ斟酌シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十五條　有體動產ノ請求ノ差押ニ付テハ其動產ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

右動產ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

第六百十六條　不動產ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動產ヲ不動產所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

引渡シタル不動產ニ付テノ强制執行ハ不動產ニ對スル强制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十七條　有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得ス

○有價證券ニ對スル執行ニ付テハ民事訴訟法第六百十七條ノ規定ニ依リ轉付命令ヲ發スルコトヲ得ス

第六百十八條　左ニ掲クル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一　法律上ノ養料
第二　債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル
第三　下士、兵卒ノ給料竝ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料
第四　出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乘組員ニ屬スル軍人、軍屬ノ職務上ノ收入
第五　文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第六　職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲ニ受クル報酬
第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一ヶ年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得

第六百十九條　數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第六百二十條　執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ屆出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス
支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス
右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス

第六百二十一條　金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利アリ
第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ
第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ

第六百二十二條　請求カ不動產ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動產所在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添ヘ其不動產ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ

第六百二十三條　第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得
執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ
訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得
右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ホス效力アリ

第六百二十四條　差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間內ニ取立ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲スコトヲ得

第六百二十五條　不動產ヲ目的トセス又前數條ニ揭ケタル以外ノ財產權ニ對スル强制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス
若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

○鑛山採掘權ニ對スル强制執行ハ民事訴訟法第六百二十五條ノ規定ニ遵據スヘキモノナレハ特ニ公示ノ手續ヲ爲サヽルモ第三者ニ對シ有效ナリ

第四款　配當手續

○配當ノ實施ニ付キ異議アルトキハ民事訴訟法第六百二十九條第六百三十條第六百三十一條等ノ規定ニ從ヒ異議ノ申立ヲ爲スヘキモノニシテ直チニ訴ヲ以テ之ヲ主張スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第六百三十一條以下ニ規定スル所ノ配當ニ關スル異議中ニハ債權ノ存否優劣又ハ配當ノ比例等ニ對スル異議ノミニ限ラス苟クモ配當ニ關係ヲ有スルモノタル上ハ差押債權者カ取立タル金錢ニシテ配當額ニ加ヘサルコトヲ不當トスルノ異議ヲモ包含スヘキモノト解釋セサルヘカラス

○金錢カ供託ニ漏レタルハ差押債權者ヨリ其取立ヲ執行裁判所ヘ届出テサル結果ニシテ從テ配當表ノ作成手續ニ失體ナシトスルモ配當要求ヲ爲ス債權者ニ於テ差押債權者ノ違法ナル行爲ニ對シ異議ヲ主張スルノ妨ケトナルコトナシ

第六百二十六條　配當手續ハ動產ニ對スル强制執行ニ際シ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間內ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

第六百二十七條　裁判所ハ事情屆書ニ基キ七日ノ期間內ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

第六百二十八條　前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ屆書ノ旨趣及ヒ其證據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サス

第六百二十九條　裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閱覽セシムル爲メ遲クトモ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置ク可シ

第六百三十條　期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

○適法ニ調製セラレ且執レノ債權者モ異議ヲ申立テスシテ適法ニ實施セラレタル配當表ハ終局的判決ノ性質ヲ帶ヒ裁判所及ヒ各債權者ヲ絕對ニ羈束シ得ル確定決定ノ效力ヲ有ス

第六百三十一條　異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ實施ス可シ

異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限リ配當ヲ實施ス可シ

第六百三十二條　期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十三條　期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラス配當ノ實施ヲ命ス可シ

第六百三十四條　異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラルルコト無シ

○此確定決定ニ對シ不服ノ訴權ヲ有スルモノハ民事訴訟法第六百三十四條ニ明揭スル所ノ異議ヲ申立タル債權者ニ限リ其他ノ債權者ハ斯ル訴權ヲ有セス　三〇一〇八七

○配當實施後之ニ不服ヲ唱ヘ訴ヲ起シテ不動產上ノ抵當權ヲ主張スルニハ配當表ニ對シ異議ヲ申立タルコトヲ要ス　三〇一〇八七

第六百三十五條　異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十六條　異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係爭部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命ス可シ

第六百三十七條　異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲ス可シ

第六百三十八條　前二條ノ判決確定ノ證明アルトキハ配當裁判所ハ其判決ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

第六百三十九條　裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ債權一分ノミノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ證記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可シ

第二節　不動產ニ對スル强制執行

第一款　通則

○他人ノ地所ニ建設シアル建物ノ强制競賣ノ場合ニ告示ニ因リ地所所有者ト被競賣者トノ間ニ於テ地所明渡ノ訴訟中ナル事實ヲ了知シタル上

之ヲ競落セシメタルトキハ其競落人ハ地所所有者ヨリ確定判決ノ結果トシテ明渡ヲ請求セラルヽモ之ニ對シ異議ヲ唱フル權利ナシ

第六百四十條　不動產ニ對スル强制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一　强制競賣

第二　强制管理

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

强制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

第六百四十一條　不動產ニ對スル强制執行ニ付テハ其不動產所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動產數箇ノ區裁判所ノ管轄區內ニ散在スルトキハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

强制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

第二款　强制競賣

○競賣開始決定後其債權額ヲ幾部減少スルモ之カ爲メ決定ノ全部カ其效力ヲ失フモノニ非ス

○强制執行ノ目的物競賣代金ニ付キ優先權ヲ主張スル訴ノ判決ニ於テ曩キノ供託命令ヲ取消スヘキニ之ヲ爲サヽリシ場合ハ申請若クハ別ニ訴ヲ提起シテ之カ取消ヲ求ムルノ途ナシ唯控訴ヲ以テ不服ヲ唱フヘキモ

三一　二九　三三

八　五　九

三　三八　二

ノトス

○曾テ債務者ヨリ不動產ノ所有權ヲ取得シタル者カ其登記ヲ怠リ且其不動產ノ競落許可ノ決定後マテ異議ナク經過シタルトキハ其取得者ハ競落人及ヒ競賣ニ付テノ利害關係人ニ對シ所有權ヲ對抗スルコトヲ得サルモノトス

第六百四十二條　强制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示

第二　不動產ノ表示

第三　競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

第六百四十三條　申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一　登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動產ニ付テハ登記判事ノ認證書

第二　登記簿ニ登記アラサル不動產ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證ス可キ證書

第三　地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登錄シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一个年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書

第四　建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一个年ノ公課ヲ證ス可キ證書

第五　地所、建物ニ付キ賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃ヲ證ス可キ證書

第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得

三四　九　二三

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記錄ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セス

第六百四十四條　競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動產ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ

差押ハ債務者カ不動產ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

○民法施行前ニ在テハ十年ノ期間ヲ超ユル地所ノ賃貸借ヲ以テ民事訴訟法第六百四十四條第二項ニ所謂不動產ノ利用ト看做サヽルノ規定ナシ　三二一六

第六百四十五條　裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動產ニ付キ強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記錄ニ添附スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動產ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第六百四十六條　配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

○假差押ヲ拋棄シタル意思明カナレハ其假差押解放命令ノ有效ナルト無效ナルトヽ又假差押登記ノ抹消セラレタルト否トヲ問ハス既ニ消滅シタル假差押ノ理由トシテ競落期日ノ終結後民事訴訟法第六百四十六條第二項ニ依リ配當要求ヲ爲ス權ナシ　二八〇三八

第六百四十七條　執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間內ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間內ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第六百四十八條　左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス

第一　差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二　債務者

第三　登記簿ニ記入アル不動產上權利者

第四　不動產上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記錄ニ備フ可キ屆出ヲ爲シタル者

○他人ノ犯罪行爲ニ因リテ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テ抵當不動產ノ所有者ハ民事訴訟法第六百四十八條第二號ニ所謂債務者ニ相當セス第三者ノ地位ニ在ルモノトス　三四九一一三

第六百四十九條　差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル不動產ノ負擔ヲ競落人ニ引受

ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス

不動產ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス

留置權カ不動產ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

質權カ不動產ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス（明治三十一年法律第十一號ヲ以テ本條中改正）

第六百五十條　權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス

若シ不動產カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限リ新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ

競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス

第六百五十一條　裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

第六百五十二條　登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不動產上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲモ送付ス可シ

第六百五十三條　豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間內ニ其障碍ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間內ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

第六百五十四條　裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動產ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ

第六百五十五條　裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動產ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

第六百五十六條　裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動產上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ

右通知ヨリ七日ノ期間內ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ

第六百五十七條　裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

第六百五十八條　競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　不動產ノ表示

第二　租稅其他ノ公課

第三　賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃
第四　強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
第五　競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所
第六　最低競賣價額
第七　競賣期日ノ場所及ヒ日時
第八　執行記錄ヲ閲覽シ得ヘキ場所
第九　登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨
第十　利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨

○民事訴訟法第六百五十八條列記ノ事項ヲ不動産競賣期日ノ公告ニ遺脱スルモ其競落ノ許可ニ付テ異議ノ申立ナク裁判所モ亦之ヲ看過シテ競落許可ノ決定ヲ爲シタルトキハ瑕瑾ナキ決定ト同一ニ歸シ當然無效ノモノニ非ス

三一〇　九五

第六百五十九條　競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ
此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシムル
第六百六十條　競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス
此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク
第六百六十一條　競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ掲示シテ之ヲ爲ス
第一　裁判所ノ掲示板
第二　不動産所在地ノ市町村ノ掲示板
此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得
第六百六十二條　最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル競却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限リ之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得
第六百六十三條　競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記錄ヲ各人ノ閲覽ニ供シ又特別ノ競却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競賣價額申出ヲ催告ス可シ
第六百六十四條　利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメンコトヲ申立ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サス
右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦效力アリ
第六百六十五條　競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス
競賣ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得ス
第六百六十六條　執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告知ス可シ
他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムル權利アリ
第六百六十七條　競賣ニ付キ作ルヘキ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　不動産ノ表示
第二　差押債權者ノ表示
第三　執行記錄ヲ各人ノ閲覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト
第四　競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時
第五　總テノ競買價額竝ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト
第六　競賣ノ終局ヲ告知シタル日時
第七　申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト
第八　最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取リ之ヲ調書ニ添附ス可シ

第六百六十八條　執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ

第六百六十九條　最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第百四十三條第三項ノ規定ヲ準用ス

住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十條　競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十一條　裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

第六百七十二條　競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス
第一　強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト
第二　最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト
第三　法律上ノ賣却條件ニ抵觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト
第四　競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ揭ケタル要件ノ記載ナキコト
第五　競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト
第六　第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト
第七　第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト
第八　第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

第六百七十三條　異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

第六百七十四條　裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限リ第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限リ第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ル

第六百七十五條　數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ强制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス

此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得

第六百七十六條　第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ全ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十七條　前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許ササル決定ノ言渡ヲ爲ス可シ

競落期日ノ調書ニ付テハ第百二十九條乃至第百三十二條及ヒ第百三十四條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十八條　競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第六百七十九條　競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産、競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ掲ク可シ

右決定ハ之ヲ言渡ス外尚ホ裁判所ノ掲示板ニ掲示シテ公告ス可シ

第六百八十條　利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得

右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

第六百八十一條　競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル總テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケラルルコト無シ

第六百八十二條　抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ

第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

第六百八十三條　執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ裁判所ノ掲示板ニ掲示シテ公告ス可シ

第六百八十四條　競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル

第六百八十五條　第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許ササルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十六條　競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトス

○曾テ債務者ヨリ不動産ノ所有權ヲ取得シタル者カ其登記ヲ怠リ且其不動産ノ競落許可ノ決定後マテ異議ナク經過シタルトキハ其取得者ハ競落人及ヒ競賣ニ付テノ利害關係人ニ對シ所有權ヲ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○競賣ノ目的物ノ所有權カ完全ニ競落人ニ移轉シタル場合ニハ競賣ノ際競落人ノ意思ノ善惡ニ因リテ效果ヲ異ニスヘキモノニ非ス

第六百八十七條　競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメンコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

第六百八十八條　競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ

最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス

○競賣ハ獨リ債務者ノ爲メニノミ執行スルモノニ非スシテ利害關係人全般ノ爲メニ執行スルモノナリ故ニ民事訴訟法第六百八十八條末項ニ規定セル前ノ競落人補足ノ義務ニ對スル請求權ハ債務者ニノミ專屬スヘキモノニ非スシテ利害關係人ハ皆之ヲ享有行使スルコトヲ得ヘキモノトス

○民事訴訟法第六百八十八條ニ所謂「再競賣」トハ第三回以下ノ競賣ヲモ包含スト雖モ第三回又ハ第四回ノ競賣ヲ再競賣ト稱スルトキハ第二回又ハ第三回ノ競賣ニ對シテ立言スルモノニシテ常ニ之カ原因ヲ爲セル

競落人ノ干與シタル直近ノ前競賣ニ對シテ用ヰタル文詞ナリ

○不動産ニ對スル強制執行ニ於テ再競賣ノ結果後ノ競賣代價カ前ノ競賣代價ヨリ低ク價格ニ不足ヲ生シタルトキハ抵當權者ハ前ノ競落人ノ負擔ニ屬スル右不足額ニ對シ同競落人ヨリ自己ノ優先權ニ基ク部分ノ債權ノ支拂ヲ受クル權利アリ隨テ其部分ニ限リ直接ニ之ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス

第六百八十九條　共有物持分ノ強制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其強制競賣ノ申立ヲ通知ス可シ

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

第六百九十條　競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル差押記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

第六百九十一條　競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

第六百九十二條　各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

○各債權者ニ配當スヘキ不動産ノ賣却代金ハ民事訴訟法第六百九十二條ニ依リ計算書ヲ差出シタル債權者ニ付テハ其計算書ニ依リ計算書ヲ差出サヽル債權者ニ付テハ同條第二項ニ基キ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用シテ配當要求並ニ屆書ノ旨趣及ヒ證據書類ニ依リ作製シタル配當表ニ從テ配當スヘキモノトス從テ競落期日以後ニ生スヘキ利息ハ唯リ計算書ヲ差出サヽル債權者ノミナラス計算書ヲ差出シタル債權者ト雖モ之ヲ請求スルコトヲ得ス

三四　一　三〇

三四　四　六八

第六百九十三條　代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

第六百九十四條　期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ

左ノモノヲ賣却代金トス

第一　代金

第二　不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百九十五條　裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

三三　三　九

第六百九十六條　配當表ニハ賣却代金、各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位竝ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條　配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

第六百九十八條　期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

第六百九十九條　競落人ハ賣却條件ニ因リ不動產ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條　配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

第一　競落人ノ所有權ノ登記

第二　競落人ノ引受ケサル不動產上負擔記入ノ抹消

第三　第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔ス可シ

第七百一條　數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動產ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百二條　裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百三條　入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　入札人ノ氏名及ヒ住所

第二　不動產ノ表示

第三　入札價額

第七百四條　執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

第七百五條　最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求ヲ受クルモ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但

此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

第三款　強制管理

第七百六條　強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス

不動產カ債權者ノ債權ニ付キ不動產上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動產ヲ債務者カ占有スルコトヲ疏明スル證書ヲ以テ足ル

第七百七條　裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ干涉スルコト及ヒ不動產ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動產ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ

既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス

開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百八條　裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動產ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記錄ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動產ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第七百九條　配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第七百十條　執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ

第七百十一條　管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動產ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス

第七百十二條　裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

第七百十三條　第三者不動產ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第七百十四條　管理人ハ直チニ不動產ニ付キ得タル收益ヨリ其不動產ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ扣除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ

前項ノ屆出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作リ其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サ

シムル可シ

第七百十五條　管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ

各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシム可シ

第七百十六條　強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債權者不動產ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

第三節　船舶ニ對スル強制執行

第七百十七條　商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動產ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

端舟其他權權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ權權ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

第七百十八條　船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第七百十九條　船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條　強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一　債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疏明スルニ足ル可キ證書

第二　船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アランコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第七百二十一條　裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス

若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七百二十二條　船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス

差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル

第七百二十三條　船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消ス可シ

第七百二十四條　競賣期日ノ公告ニハ第六百五十六條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ

第七百二十五條　定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ掲示板ニ掲示ス可キコトヲ囑託ス可シ

第七百二十六條　船舶ノ股分ニ對スル强制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百二十七條　債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添附ス可シ

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

第七百二十八條　船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條　外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

第三章　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ强制執行

第七百三十條　債務者カ特定ノ動產又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ

第七百三十一條　債務者カ不動產又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此强制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

强制執行ノ目的物ニ非サル動產ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動產ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ

債務者カ其動產ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

○僧侶ニ寺院立退ヲ命スル假處分ノ如キハ家屋明渡ノ命令ト一般民事訴訟法第七百三十一條及ヒ執達吏職務細則第四十一條第三號以下ノ規定ヲ準用シ執達吏ニ於テ其履行ヲ實施スヘキモノトス

第七百三十二條　引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申

立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

第七百三十三條　民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス（明治三十二年法律第十一號ヲ以テ本條中改正）

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アランコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

○被告ハ原告カ落水ノ爲メニスル水路使用權ヲ妨害スヘカラストノ訴ハ原告ノ權利保護ニシテ利益アルハ勿論其判決確定シ若シ被告之ニ從ハサレハ民事訴訟法第七百三十三條及ヒ民法施行法第五十四條ノ規定ニ依リ之カ執行ヲ爲スヘキ途アリトス

三四　五　一三〇

第七百三十四條　債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間內ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス（明治三十一年法律第十一號ヲ以テ本條改正）

第七百三十五條　前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

第七百三十六條　債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

二七　〇　一七〇

第四章　假差押及ヒ假處分

二八　三　四六

○地所假差押ノ登記カ抹消セラレタル後其地所ノ賣買登記ヲ受クルモ假差押登記ノ抹消カ不法ニ出テ假差押ヲ爲サシメタル債權者之ニ關與セサルトキハ假差押ノ效力ハ依然トシテ失ハス從テ所有權ハ後ノ賣主ニ移轉スルモノニ非ス

二九　一　五〇

○假差押申請者カ本案ノ請求立タスシテ敗訴スルトキハ不當ニ他人ノ財產ヲ差押ヘタルモノナルヲ以テ之ニ因リ生シタル損害ニ付テハ其責ニ任スヘキモノトス

三一　九　一四

○民事裁判所ニ申請シテ假差押ノ命令ヲ得タル後申請者ノ選擇ニヨリ本案ノ訴ヲ私訴トシテ刑事裁判所ニ提起スルモ既ニ得タル假差押ノ命令ノ無效ヲ惹起スルカ如キ關係ヲ生セス

○鑛山採掘權ノ書入登錄出願ハ假差押ノ前ニ在ルモ登錄ニシテ其後ナルトキハ書入債權者ハ假差押債權者ニ對シテ優先權ナキモノトス

○金錢支拂ノ債權ニ對スル假差押命令ノ效力ト有價證劵引渡ノ債權ニ對スル假差押命令ノ效力ト同一ニ看做スコトヲ得ヘキヤ否ヤハ其假差押命令タルノ性質上他ノ法則若クハ規約等ニ拘ハラス專ラ民事訴訟法ノ規定ニ依リ之ヲ決セサルヘカラス　三四　三　七三

○金錢支拂ノ債權ニ對スル假差押命令ノ效力ハ有價證劵引渡後ノ債權ニ及ホスコトヲ得サルモノトス　三四　三　七三

○假差押ヲ爲シタル債權者ノ權利確定シテ强制執行ヲ爲スヲ得ヘキ時期ニ達スルトキハ前ニ假差押ヲ爲シタル目的ニ付キ更ニ差押ノ手續ヲ爲スノ要ナシ直チニ競賣換價等ヲ爲スコトヲ得ヘシ　三四　二　七九

○登記請求ノ訴起リ裁判所ヨリ假處分命令ヲ發シタル後ニ受ケタル身代限ヲ理由トシテ此登記ヲ拒ムコトヲ得ス　二四　一　一四

○質期間中其質物ニ對シ假處分ノ命令ヲ受ケタルトキハ質置主ニ於テ其債務ヲ辨濟スルトキト雖モ仍ホ其質受ハ法律ニ基ク命令ノ力ニ依リテ合意期間ニ於テ之ヲ爲スコト能ハス質權者モ亦其期間ノ滿了ニ依テ質物ノ所有權ヲ取得スルコト能ハス　二八　〇　四一〇

○假差押假處分ハ執行保全ノ爲メニ要スル行爲ナレハ其申請及ヒ之ニ對スル命令ハ即チ一種ノ特別訴訟手續ニ屬スルモノニシテ執行手續ニ非ス　三四　三　一

第七百三十七條　假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換ノルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動產又ハ不動產ニ對スル强制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

○乙者ノ敗訴ニ歸シタルハ其請求ノ根據ナキカ故ニ非スシテ起訴ノ方法其宜ヲ得サリシカ爲メナレハ對手人甲者ハ之カ爲メ乙者ニ對スル債務ヲ免脫セラレタルモノト云フヲ得ス然ラハ縱令乙者ハ一旦敗訴シタルニモセヨ本訴ニ於テ勝敗ノ判決ヲ受クルニ至リタル上ハ前訴ノ際債權保全ノ爲メ爲シタル假差押ハ決シテ不法ナリト云フヲ得サルニ付キ原裁判所カ其債權ヲ保全スルノ意思ヲ以テ假差押ヲ爲シタルハ縱令訴訟ノ目的ヲ達セサルモ違法ニ非スト說明シタルハ相當ナリ而シテ原判決ノ採證上ニ多少ノ不都合アルモ之カ爲メ損害ヲ受ケタリト云フヲ得サル筋合ナルトキハ爲メニ其判決ヲ破毀スルニ足ラス　二七　〇　四三五

第七百三十八條　假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十九條　假差押ノ命令ハ假ニ差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

第七百四十條　假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一　請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二　假差押ノ理由タル事實ノ表示

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ疏明ス可シ

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七百四十一條　假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ

第七百四十二條　假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

第七百四十三條　假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲ニ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

第七百四十四條　債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得

此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ

異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

第七百四十五條　異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ

裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

○民事訴訟法第七百四十五條ハ之ヲ假處分ニ準用スルコトヲ得ス

第七百四十六條　本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間內ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

○假差押ノ申請ヲ爲スニ當リ本案ノ訴訟ヲ提起ス可キ裁判所ニ付キ豫メ意思ヲ表示シタルノミニテハ未タ以テ本案訴訟カ其裁判所ニ起訴セラレタルモノト云フヲ得ス

第七百四十七條　債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

第七百四十八條　假差押ノ執行ニ付テハ强制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百四十九條　假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十條　動產ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲ス可シ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ寄得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得

○債務者所有ノ公債證書又ハ株券ヲ保管スル第三者ハ之ヲ返還スル債務ヲ負フ者ナレハ債權者ハ債權假差押ノ手續ニ依リ之カ假差押ヲ爲スコトヲ得

第七百五十一條　不動產ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

第七百五十二條　假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

第七百五十三條　船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

第七百五十四條　假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百五十五條　係爭物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

○前訴ノ確定判決ノ執行ヲ續行スル場合ニ於テ民事訴訟法第七百五十五條以下ニ依リ係爭物ニ關シ假處分ヲ爲スノ規定ヲ適用シタルハ不法ナリ

○假處分命令ノ手續ハ一種ノ訴訟手續ニシテ强制執行ノ手續ニ非ス

○假差押命令ハ强制執行ヲ保全スルカ爲メニシテ單純ナル强制執行ノ一部ニ非ス

○訴訟當事者以外ノ者ニ對シ假處分ヲ爲スハ不當ナリトス

○債務者ノ處分ヲ禁スル假處分命令ナルモノハ其採掘特許權ナルト他ノ財産權ナルトニ論ナク將來ニ於ケル行爲ヲ禁スルモノニシテ其以前ノ行爲ニ付テハ縱令其行爲カ賣買ノ豫約ニ係ルト雖モ其豫約ノ實行マテヲ禁スルカ如キ效力ヲ有スルモノニ非ス　三四

第七百五十六條　假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス　五　一三五

○假處分ヲ以テ裁判所カ決定ニ依リ被上告人ニ對シ或行爲ノ禁止ヲ命令シタル場合ニハ其決定書ヲ被上告人ニ對シ送達シ終リタル以上別ニ執達吏ヲシテ執行ヲ爲サシムヘキモノニ非ス從テ假差押命令ノ場合トハ自ラ差違アルヲ以テ假處分送達ヲ十四日ノ期間內ニ執行セサリシトテ假處分ヲ取消スヘキモノニ非ス　二八　〇　五四七

○民事訴訟法第七百四十五條ハ之ヲ假處分ニ準用スルコトヲ得ス　二八　二　六〇

○假處分申請ニ付テノ訴訟代理人ハ其決定ニ對スル相手方ノ異議申立ニ對シ民事訴訟法第六十五條ニ從ヒ當然答辯ヲ爲ス資格ヲ有ス　三〇　三　九三

○假處分決定ニ對シ不服ヲ申立ツルトキハ民事訴訟法第七百四十四條第一項及ヒ第七百五十六條ニ依リ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモ同第五百五十八條ニ從ヒ抗告ヲ爲スコトヲ得ス　三〇　三　一七六

○假處分決定ニ對スル異議ノ申立ニハ當事者ノ表示ヲ要件トセス唯何人ノ申請ニ因ル假處分ノ決定ニ對シ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示スレハ足レリ　三一　二　四四

○裁判所カ終局判決ヲ以テ起訴者ノ請求ヲ排斥スルトキハ假處分ニ關スル事情ノ變更ト看做シ申立ニ依リ其處分ヲ取消スコトヲ得ヘキハ法理上當然ナリ　三一　五　一〇三

○假處分ノ許否ヲ決定スルニハ其假處分ノ申請ニ付キ法律ニ規定シタル假處分ヲ許スヘキ理由アルヤ否ヤヲ審理スヘキモノニシテ主タル訴訟ノ曲直ヲ豫斷シ之ニ由テ假處分ノ許否ヲ定ムヘキモノニ非ス　三三　三　四

○特別ノ狀況ニ因レル假處分命令取消ノ申請ニ付テハ終局判決ヲ以テ之カ裁判ヲ爲スヘキモノナリ　三三　四　四三

○假處分取消ノ申立ニ付テハ民事訴訟法第七百五十六條ニ依リ假差押取消手續ニ於ケル同法第七百四十七條第二項ノ規定ヲ準用シ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判スヘキモノトス　三三　一　一二七

○假處分ノ命令ニ對シ不服アルトキハ民事訴訟法第七百五十六條第七百四十四條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スヘキモノニシテ抗告スヘキモノニ非ス此手續ハ假處分ヲ命シタル裁判所カ第一審裁判所ナルト抗告裁判所

ナルトヲ問ハサルモノトス

第七百五十七條　假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十八條　裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動產ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

○地上權及ヒ永小作權登記請求ノ訴訟ヲ提起セントスルニ當リ其權利ノ保全方法トシテハ假登記ヲ申請スルヨリモ寧ロ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ假處分ノ申請ヲ爲シ裁判所ヲシテ同法第七百五十八條第三項ニ依リ其處分ヲ爲サシムルヲ以テ便利且相當トス

第七百五十九條　特別ノ事情アルトキニ限リ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

○民事訴訟法第七百五十九條ニ因リ爲シタル假處分取消ノ申請ニ付テハ同法第七百四十七條ニ從ヒ終局判決ヲ以テ裁判スヘキモノニシテ決定ヲ以テ裁判スヘキモノニ非ス

○假處分ノ取消ハ縱令保證ヲ立ツル申立アルモ特別ノ情況アルニ非サレ

三三　一一　一三〇
三四　九　一七
三〇　七　三三

ハ之ヲ許スヘキモノニ非ス

第七百六十條　假處分ハ爭アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル强暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第七百六十一條　急迫ナル場合ニ於テハ係爭物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得

此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百六十二條　本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限リ控訴裁判所トス

○民事訴訟法第七百六十二條本文ノ法意ハ要スルニ本案ノ未タ何レノ裁判所ニモ繫屬セサル場合及ヒ其上告裁判所ニ繫屬スル場合ニ於テ第一審裁判所ヲ以テ所謂本案ノ管轄裁判所トスルコトヲ規定シタルニ外ナラス

第七百六十三條　急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限リ裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

三三　四　八八
三四　二　七八

第七編　公示催告手續

第七百六十四條　請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百六十五條　公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲ス可ク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一　申立人ノ表示

第二　請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告

第三　届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四　公示催告期日ノ指定

第七百六十六條　公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ第百五十七條第三項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第七百六十七條　公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクトモ二个月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百六十八條　公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百六十九條　除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十條　申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ爭フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出ヲタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出ヲタル權利ヲ留保ス可シ

第七百七十一條　申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六个月ノ期間内ニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス

第七百七十二條　公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七百七十三條　裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條　除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一　法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ

第二　公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三　公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四　判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

第五　請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラス判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ顯ミ

サルトキ

第六　第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第七百七十五條　不服申立ノ訴ハ一ヶ月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル

除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

第七百七十六條　裁判所ハ第百二十條ノ條件ノ存セサルトキト雖モ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

第七百七十七條　盗取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無效ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無效宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限リハ之ヲ適用ス

第七百七十八條　無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ

此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

第七百七十九條　公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七百八十條　申立人ハ申立ノ證據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一　證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二　證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ疏明スルコト

第七百八十一條　公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無效宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ戒示ス可シ

第七百八十二條　公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス

公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ掲示ス可シ

第七百八十三條　公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六ヶ月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百八十四條　除權判決ニ於テハ證書ヲ無效ナリト宣言ス可シ

除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無效宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

第七百八十五條　除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

第八編　仲裁手續

○仲裁人ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ニ非サレハ金圓授受ノ權限ヲ有セス

第七百八十六條　一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ爭ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係爭物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限リ其效力ヲ有ス

第七百八十七條　將來ノ爭ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル爭ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セス

第七百八十八條　仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

第七百八十九條　當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間內ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ

有期間ヲ徒過シタルトキハ當該裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

第七百九十條　當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラル

第七百九十一條　仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間內ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ當該裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

第七百九十二條　當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得

無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

第七百九十三條　仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲ササリシトキハ其效力ヲ失フ

第一　契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延シタルトキ

第二　仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

第七百九十四條　仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限リハ爭ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第七百九十五條　仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ

第七百九十六條　仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サル

モノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲ス可シ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述フルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ

第七百九十七條　仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許ス可カラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判斷ス可キ爭ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

第七百九十八條　數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲ス可キトキハ過半數ヲ以テ其判斷ヲ爲ス可シ但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七百九十九條　仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印ス可シ仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ

第八百條　仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第八百一條　仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

第一　仲裁手續ヲ許ス可カラサリシトキ

第二　仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ

第三　當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

第四　仲裁手續ニ於テ當事者ヲ訊審セサリシトキ

第五　仲裁判斷ニ理由ヲ付セサリシトキ

第六　第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ揭ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百二條　仲裁判斷ニ因リ爲ス强制執行ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ言渡シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百三條　執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ揭ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疎明シタルトキニ限ル

第八百四條　仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變期間內ニ之ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五个年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス

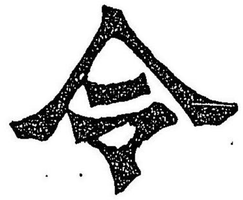
仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡ス可シ

第八百五條　仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許ス可カラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキ

ハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス

前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

諸法合



帝國憲法

第二十四條　日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルルコトナシ

○憲法第二十四條ハ既定ノ法律上ヨリ得タル權利ヲ示シタルモノニシテ民事ニ非サル純然タル行政處分ニ關係ヲ有セス同法第六十一條ハ行政裁判所ニ屬スル訴訟ハ司法裁判所カ受理スヘカラサルコトヲ限定シタルニ止マリ其他ノ訴訟ハ總テ司法裁判所カ受クヘシトノコトヲ規定シタルモノニ非ス而シテ民刑以外ノ訴訟ハ司法裁判所ニ於テ受理スヘカラサルコトハ裁判所構成法第二條ノ文意ニ據テ明確ナリ

第六十一條　行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

○事件カ其性質上司法裁判所ノ權限ニ屬セサルモノハ縱令行政裁判所ニ於テ之ヲ管轄スル規定ナキニモセヨ司法裁判所ニ於テ受理スヘキモノニ非ス

（同三宮）

憲法第六十一條ハ行政裁判所ニ屬スル訴訟ハ司法裁判所カ受理スヘカラサルコトヲ限定シタルニ止マリ其他ノ訴件ハ性質ノ如何ニ拘ハラス總テ之ヲ受理スヘシトノコトヲ規定シタルモ

二六　二　三五〇

二九　三　九八

ノニ非ス

衆議院議員選擧法

第六條　選擧人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一　日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二　選擧人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣內ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三　選擧人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣內ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

○衆議院議員選擧資格ニ付キ營業稅ヲ納ムル者カ其營業ヲ他人ニ讓渡シタル事實アルトキハ縱令未タ營業稅法規則第十三條ニ從ヒ其讓渡ノ屆出ヲ爲サヽルモ既ニ納稅ノ資格ヲ失ヒタルモノトス

第八條　被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選擧人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ選擧府縣內ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

○所得稅ニ繼クニ地租ヲ以テスルモ仍ホ其地租ヲ選擧人名簿調製期日即チ四月一日前滿一年以上納ムル者ニ非サレハ選擧法第八條ノ被選資格ヲ有スル者ト爲スヲ得ス

第二十五條　選擧長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選擧區內ニ告示スヘシ

○選擧人名簿ニ記載シアル選擧人ノ資格ヲ判定スルニ人證ヲ採用スルモ違法ニ非ス

第二十九條　選擧人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ據置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選擧長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四時內ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選擧區內ニ告示スヘシ

○衆議院議員選擧法ニ所謂選擧人名簿ノ確定トハ當時名簿ニ記載セラレタル事實ニ依リ選擧資格ヲ有スルモノタルコトヲ確定スルニ止マリ爾後選擧人ノ身分又ハ財產ニ變動ヲ來タシ其資格ヲ失フコトアルモ其投票ハ常ニ有效ナリト確定セシ法律ニハ非ス

第七章　投票

○衆議院議員選擧法第三十七條乃至第三十九條ノ規定ニ違背シタル投票ハ當然無效タリ　二九　八　四六

○衆議院議員選擧法ニ於テハ自選投票ヲ禁スルノ明文ナシト雖モ條理上投票ナルモノハ選擧人ニ於テ被選人タル資格ヲ有スル者ノ中ニ就キ自己以外ノ他人ヲ選定スヘキモノナレハ自己ヲ被選人ト爲シタル投票ハ無效ナリ　三三　四　二七

第三十四條　投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

○衆議院議員選擧法第三十四條ノ投票時限ハ容易ク伸縮スヘキモノニ非スト雖モ事ニ害ナキ以上ハ時間前ニ閉鎖シタリトノ一事ヲ以テ破毀ノ理由ト爲スコトヲ得ス　二六　一　五

第三十八條　投票用紙ハ各府縣各一定ノ式ヲ用ヰ選擧ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選擧人ニ交付スヘシ

選擧人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

○被選人ノ名ノミヲ記載シタル投票ト雖モ投票以外ノ證據即チ投票明細書ニ依リテ其姓ノ何タルヤヲ知リ得ルトキハ之ヲ有效トスルモ違法ニ非ス　二六　二　一九二

第五十一條　左ニ掲クル投票ハ無效トス　二六　二　一九三

一　選擧人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

三　選擧人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四　資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其效アルモノトス

五　誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選擧人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用ヰ又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用ヰタルモノハ此ノ限ニ在ラス　三二　八　五三

○法文ニ投票ノ無效ヲ制裁シタル條項中選擧人ノ住所ノ記載ナキモノヲ算入シアラサル以上ハ之ヲ以テ無效ノ投票ニ非ストス

○法文ニ捺印ナキ投票ハ無效ナリトノ規定ナキヲ以テ是レ亦無效ノモノニ非ストス

○衆議院議員選擧法第五十一條第五號ハ選擧人又ハ被選人ノ誰タルヤヲ認知シ得ルヤ否ヤヲ以テ投票ノ效力ヲ定ムルノ標準ト爲シタル法意ニ過キスシテ例示的ノ規定ナリトス

第五十二條　投票效力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選擧委員ノ意見ヲ聞キ選擧長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選擧會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

○衆議院議員選擧法第五十二條及ヒ同施行規則第二十九條ニ掲ケタル選擧長ノ決定ニ付キ異議アル時ノ規定ハ一般有權者ヲ指シタルモノニシテ選擧委員ニ應用スヘキモノニ非ス　二五　五　九七

第七十八條　各選擧區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無效トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以內ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ效ナシ

○衆議院議員選擧法ニ據レハ當選訴訟提出ノ期限ハ當選人カ姓名告示日ヨリ三十日以內ニ控訴院ニ出訴スヘキモノナレトモ里程猶豫ノ如キハ普通民事ノ規定ニ隨フヘキモノトス　二五　四　二〇

○衆議院議員選擧法第七十八條ノ訴訟ト同法施行規則第二十九條ノ訴訟トハ二者互ニ其目的及ヒ當事者ヲ異ニスルノミナラス第七十八條ノ當選訴訟ニ付テハ別ニ其當選ヲ無效トスル理由ニ制限ナキヲ以テ選擧長ノ決定シタル投票ニ對シ更ニ論爭スルヲ妨ケス　三　四　二四

（同注書）

當選訴訟ハ其理由ニ制限ナキヲ以テ縱令投票ノ有效無效ヲ理由トスルモ是ヲ以テ當選訴訟規定以外ノモノト爲スコトヲ得ス

衆議院議員選擧法第七十八條ハ選擧全體ノ手續ニ瑕疵アル如キ場合ノミニ限ラス各箇投票ノ效力有無カ選擧全體ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ニ於テハ其各箇投票ノ效力有無ニ論及シ得ヘキ法意ナリ　二五　六　六七

選擧人名簿ニ關スル選擧長ノ決定アリト雖モ其名簿記載ノ根元ニ於テ錯誤無效等ノ事實アルニ於テハ裁判上該決定ニ反シテ選擧人ノ資格ノ有無ヲ確定スルヲ得ヘシ　二九　八　四五

第八十二條　審判中衆議院解散ノ命アルトキハ訴訟ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ　二九　八　四六

○衆議院議員當選訴訟ハ原判破毀ノ理由アルモ審判中衆議院解散ノ命アルトキハ之ヲ他ニ移送セス破毀ノ上直チニ棄却ス　二五　一　三九

第八十八條　當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノト外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

○衆議院議員選擧法ニ據レハ當選訴訟提出ノ期限ハ當選人カ姓名告示日ヨリ三十日以內ニ控訴院ニ出訴スヘキモノナレトモ里程猶豫ノ如キハ普通民事ノ規定ニ隨フヘキモノトス　二五　四　二〇

衆議院議員選擧法施行規則

第三條　選擧人及ヒ被選人ノ納稅資格ハ地租ニ付テハ選擧人名簿調製期日(四月一日)ノ前滿一年以上十五圓以上ヲ納ムヘキ土地ヲ所有シ之ヲ納メ仍引續キ所有シ及納ムル者ヲ以テ合格トシ所得稅ニ付テハ選擧人名簿調製期日ノ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ヲ以テ合格トス

賣買讓與ニ依リ土地ノ所有權移轉ノ場合ニ於テ其ノ所有ノ年限ヲ算スルハ登記ノ日ニ依ルヘシ

滿三年以上所得稅ヲ納メ及滿一年以上地租ヲ納ムル者其ノ地租及所得稅ヲ併セ十五圓以上ニ及フトキハ納稅資格ヲ有スルモノトス但シ所得稅ヲ納ムル者毎年ノ納額ニ差異アルトキハ其ノ最少額ヲ以テ地租ニ併算スヘシ

○衆議院議員選擧法施行規則第三條ハ同選擧法第六條ノ三ニ於ケル「直接國稅云々仍引續キ納ムル者」トノ意義ヲ解釋シタルモノニシテ單ニ納稅ノ意義ヲ示シタルニ止マラス必ス十五圓以上ノ稅ヲ納ムヘキ土地ヲ仍選擧ノ際迄引續キ即チ間斷ナク所有セサルヘカラストノ意義ヲ包含スルモノナリ

○衆議院議員選擧法施行規則第三條第一項ノ規定ハ選擧人名簿調製期日ヨリ起算シ其前滿一年以上地租上納ヲ爲スヲ要スル意ニ非スシテ其名簿調製ノ期日ヨリ以前滿一年以上ノ地租ヲ負擔シ之カ完納ヲ要スルノ旨趣ナリトス

○地租十五圓以上ヲ納ムル土地ノ所有者カ其土地ノ全部又ハ一部ヲ他ニ賣渡スコトアルモ更ニ同一日ニ於テ他ヨリ土地ヲ買入レタル爲メ納稅額十五圓以上タル場合ニハ其買入カ賣渡ノ後ナリトスルモ衆議院議員選擧法施行規則第三條ノ所謂引續キ所有スルト云フヲ妨ケス

第二十九條　選擧法第五十二條ノ選擧長ノ決定ニ對シ異議アル者又ハ第七十六條ノ投票所管理者ノ決定ニ對シ不服ナル者ハ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ選擧法第二十六條ノ例ニ依ル

○衆議院議員選擧法第五十二條及ヒ同施行規則第二十九條ニ掲ケタル選擧長ノ決定ニ付キ異議アル時ノ規定ハ一般有權者ヲ指シタルモノニシテ選擧委員ニ應用スヘキモノニ非ス

○衆議院議員選擧法施行規則第二十九條ニ依リ選擧長ノ決定ニ對シ出訴シ得ヘキ場合ハ同選擧法第五十二條ノ場合ニ限ルモノトス

裁判所構成法

第二條　通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

○憲法第二十四條ハ既定ノ法律上ヨリ得タル權利ヲ示シタルモノニシテ民事ニ非サル純然タル行政處分ニ關係ヲ有セス同法第六十一條ハ行政裁判所ニ屬スル訴訟ハ司法裁判所カ受理スヘカラサルコトヲ限定シタルニ止マリ其他ノ訴訟ハ總テ司法裁判所カ受クヘシトノコトヲ規定シタルモノニ非ス而シテ民刑以外ノ訴訟ハ司法裁判所ニ於テ受理スヘカラサルコトハ裁判所構成法第二條ノ文意ニ據テ明確ナリ

○檀家總代ナルモノハ寺院ノ財産管理上ニ關スル行務ヲ有シ普通民事ノ範圍内ニ在ルヲ以テ該總代ニ係ル訴訟ハ司法裁判ノ管轄ニ屬スルモノトス　二五　五　一六五

○宗制上ノ憲章中ニ記載シタル事項ト雖モ金穀出納等ノ事務ハ其性質普通民法上ノ權義ニ屬スヘキモノナルヲ以テ此等ノ事項ノ論爭ハ尚ホ民法上ノ訴訟タルヲ免カレサルモノトス　二六　二　二二五

○宗教部内ノ紛議ニ基ク爭訟ハ司法裁判所ノ管轄スヘキモノニ非ス　三〇　六　七七

（同三三）

宗教其物ノ爭論ハ或ハ法律ヲ以テ之カ是非ヲ判定スル能ハサルコトアルモ宗教執行上ノ權理義務ニ關スル爭訟ハ多少宗教ニ關スルコトアレハトテ必ス裁判スヘキモノニ非スト云フヲ得ス

宗教事務ニ關スル問題ハ司法裁判所ノ判定スヘキモノニ非ス　二四　一　五二

○明治十四年七月内務省乙第三十三號達ハ内務省カ宗務ニ關スル行政上ノ取締ノ爲メニ設ケタルモノニシテ私法上各人ノ權利義務ニ基キタルモノニ非ス故ニ檀家總代選擧ノ當否ヲ爭フ訴訟ハ司法裁判所ノ管轄ニ非サルモノトス　二七　一　五四

○寺院ノ住職ノ任命ハ民法上ノ行爲ニ出ツルモノニ非ス從テ其當否ヲ判定スルカ如キハ司法裁判所ノ裁判權ニ屬セス　三三　二　五五

○神社ノ祭典ニ關スル訴訟ハ宗教上ノ事項ニシテ裁判所構成法第二條ニ所謂民事ノ事項ニ屬スヘキモノニ非ス　三四　九　六五

○大字ノ境界確定ヲ目的トスル訴件ハ司法裁判所ニ屬スヘキモノニ非ス　二五　四　八四

○職權ヲ以テ調査スヘキ性質ノモノハ縱令第一審ニ於テ提出者自身ニ一旦取消シタルモ更ニ之ヲ大審院ニ提出スルモ敢テ不當ナリト云フヲ得ス（民訴四五四條六號四一四條）又本件ハ行政廳ニ係リ營業免許ノ取消ヲ求ムル者ニ非スシテ漁業權ノ侵害ヲ救濟センカ爲メ對手人カ行政廳ヨリ受ケタル所ノ免許取消願ノ手續ヲ爲サシメント求ムルモノナレハ司法裁判ニ屬スルモノトス　二七　〇　一八九

○渡船營業ハ一私人營業的ノ業務ニシテ行政官廳ノ爲スヘキ事ニ非ス只此營業ニシテ行政官廳ノ免許ヲ要スルモノハ其業務タル公衆ノ利害安危ニ關ハルヲ以テ之カ取締ヲ爲スニ過キス故ニ甲者ノ論旨カ乙者ノ此營業ヲ爲スハ法式ニ背キテ其免許ヲ得且ツ自己ノ營業ヲ害スルモノニ付キ之ヲ排斥セラレ度ト云フニ在テ行政官廳ノ處分ヲ不當視スルモノニ非サレハ此爭訟ヲ管轄スル裁判所ハ司法裁判ニ屬スヘキモノトス　二七　〇　三〇四

○村長カ村會ノ決議ヲ執行スル爲メ區有ノ地所ヲ賣却スルトキハ其行爲ハ公務上ニ出ツルト雖モ其賣買ハ私法上ノ行爲タル性質ヲ失フモノニ

非ス村長カ公務ニ依リ一ノ私法上ノ行爲ヲ爲スモノトス從テ其賣買ノ取消ヲ求ムル訴ハ民事ニ屬シ裁判所構成法第二條ニ依リ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノトス　二七　〇　二四

○一地方ノ出水ニ際シ知事カ職務上鐵道線路ヲ決潰セシメ其會社ニ損害ヲ生セシメタリトノ事ニ付キ知事ノ不法行爲ヲ原因トセル損害賠償ノ訴訟ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬ス　三〇　三　一七八

（反　對）

爭訟カ村長ノ職務上ノ行爲ニ關シ縱令私權利ヲ侵害シタル事實アルモ行政處分ニ關スル以上ハ司法裁判ニ屬スヘキモノニ非ス　二七　一　六

○司法裁判所ハ土地收用審査委員會ノ補償金額ニ關スル裁決ニ對スル訴ニ非サレハ審判スルノ權ナシ故ニ協議會ニ於ケル協議上ノ手續又ハ補償金額ニ關係ナキ裁決ニ付テノ不服ハ司法裁判所ノ管轄スヘキモノニ非ス　三〇　五　六六

○土地ノ收用ニ因リ土地所有者ノ被ムリタル損失ノ有無及ヒ起業者ノ支拂フヘキ補償ノ多寡ハ所有者ト起業者トノ間ニ於ケル純然タル私法上ノ權義問題ナルカ故ニ之ニ關スル審査委員會ノ裁決ノ當否ハ司法裁判所ニ於テ審判スヘキモノトス　三〇　一〇　三三

○水利組合會ノ議決ニ基ク新堰修繕工事ハ水利組合條例ノ規定ニ依リ組合管理者ノ處分ニ出タル行政上ノ處分行爲ニシテ即チ上級行政廳ノ監督ニ屬スヘキモノタリ故ニ其工事ノ施行ニ因リ私權ヲ害セラルヽコトアルモ之カ排除ヲ請求センニハ水利組合條例ノ規定ニ從フヘキモノニシテ司法裁判所ニ出訴スヘキモノニ非ス　三一　一　二

○公道ノ共同使用權ハ公法上ノ關係ヨリ發生シタルモノナルニモセヨ各自ノ生活上ノ必須且諸般ノ權利行使ノ要具ニシテ各人ニ於テ當然之ヲ有スルモノナレハ私法上ニ於テモ亦當然之ヲ保護セサルヘカラサルモノトス故ニ一個人ニシテ他ノ一個人ノ共同使用ヲ妨害シタルトキハ公用物ニ付キ公益ヲ害シタルノミナラス併セテ他ノ一個人ノ自由ヲ侵害シタルモノナルヲ以テ民法上ノ不法行爲ニ相當シ被侵害者ハ司法裁判所ニ出訴シ損害賠償若シハ侵害物ノ排除ヲ請求シ得ヘキモノトス隨テ無訴權ノ判決ハ不法ナリ　三一　三　八六

○民事訴訟上裁判所ノ保護ヲ求ムル目的ハ必ス私法上ノ權利關係ナラサルヘカラス而シテ譜代ナル者ハ法律上禁止セラレタル家格ニシテ私法上ノ權利關係ニ非ス故ニ譜代ニ非サルコトノ確認ノ訴ハ裁判上保護スヘキモノニ非ス　三一　八　七

○町村ノ如キ自治團體ノ公法人カ國家公權ノ分任ヲ受ケ其代表者タル町村長ヲシテ公ノ行政ヲ施行セシムル場合ニ於テ一個人ヨリ妨害ヲ受クルモ其救濟ヲ通常裁判所ニ訴求スヘキモノニ非ス　三二五六〇

○行政上ノ處分ヲ廢除若クハ變更スルコトヲ目的トスル訴訟ハ其請求者カ一私人タルト公法人タルトノ別ナク司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニ非ス　三二六八九

（同三三四）府知事カ煙草稅則第三條第三項ニ依リ發シタル通知書ノ取消ヲ求ムル訴ハ私權利ノ爭ニ非サレハ司法裁判所ニ於テ裁判スヘキモノニ非ス

○過料ハ一種ノ制裁ナルモ刑ニ非ス從テ刑事部ニ於テ審判スルヲ得ス　三二八四一三三

○官吏ノ俸給ハ官職ニ附隨スルモノナルカ故ニ其未タ官吏ノ手ニ歸セス國庫ニ對スル權利トシテ存在スル間ハ公法上ノ債權ニシテ私法上ノ債權ニ非ス從テ其債權ノ存否ヲ判定スルモ亦公法ノ解釋適用ニ外ナラサルヲ以テ特別ノ規定アルニ非サレハ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニ非ス　三三六六四

第十條　法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一　權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

第二　裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

第三　法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

第四　二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

○裁判所構成法第十條一項ニ所謂「關係アル各裁判所」トハ管轄ノ指定ヲ受クルニ付キ關係ヲ有スル裁判所ヲ指稱シタルモノニシテ既ニ裁判ヲ爲シタル裁判所ヲ指稱セルモノニ非ス

第三十一條　司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域內ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若クハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若クハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用ユルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域內ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

○支部ハ地方裁判所ノ一部ニシテ獨立ノ管轄權ヲ有スルモノニ非ス　二八　三　三八

第三十七條　控訴院ハ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス

第一　地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

第三　地方裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

○凡ソ區裁判所ノ裁判ニ對シテハ控訴院ヲ以テ最高ノ裁判所ト爲ス故ニ控訴院カ最高裁判所ノ資格ヲ以テ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ唱フルヲ聽サス　二七　〇　一三九

第四十八條　大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴訟一切ノ事ニ付下級裁判所ヲ羈束ス

○大審院ハ事實認定ノ當否ヲ審判スル所ニ非ス又其判決例ハ事實承審官ノ事實認定權ヲ羈束スヘキモノニ非ス　二四　一　一八九

○大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其訴訟一切ノ事ニ付キ下級裁判所ヲ羈束シ動カシ能ハサルヲ以テ亦之ヲ確定ト謂フヘシ　二六　二　三二九

○上告審ニ於テ控訴裁判所カ訴ノ變更アリト判決シタルモノヲ更ニ訴ノ變更ナキモノト判斷シ事件ヲ差戻シタルトキハ第二審ノ裁判所ハ裁判所構成法第四十八條及ヒ民事訴訟法第四百五十條ニ依リ其判斷ニ羈束セラル　三〇　三　一六三

第四十九條　大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付曾テ一若ハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其ノ部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

○構成法第四十九條（聯合部審問）ハ大審院ニ於テ前ノ裁判ト異ナリタル裁判ヲ爲サントスルノ意見アルトキニ適用スヘキ法條ニシテ單ニ裁判官ニ命令シタル審理手續タルニ過キサレハ此規定ニ從ハサルコトアリトテ訴訟當事者ヨリ不服ヲ申立テ得ヘキモノニ非ス　二八　〇　七七

第五十條　大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　終審トシテ

（イ）　第三十七條第二ニ依リ爲シタル判決及第三十八條ノ第一審ノ判決ニ非サル控訴院ノ判決ニ對スル上告

（ロ）　控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二　第一審ニシテ終審トシテ

刑法第二編第一章及第二章ニ掲ケタル重罪並ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノノ豫審及裁判　二八　三　二六

○大審院ノ決定ニ對シテハ更ニ不服ヲ申立ルコトヲ得ス

第百五條　裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

○裁判言渡ハ裁判所構成法第百五條ノ規定ニ基キ常ニ公行スルモノナレハ其判決言渡ノ調書ニ公開シタル旨ノ記載ナキノ故ヲ以テ其判決言渡ハ公行セサルモノト攻擊スルハ謂レナキモノトス

法例

第二條　公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル慣習ハ法令ノ規定ニ依リテ認メタルモノ及ビ法令ニ規定ナキ事項ニ關スルモノニ限リ法律ト同一ノ效力ヲ有ス

○法律ニ違背シタル習慣ハ裁判上之ヲ採用スルコトヲ得ス

第十條　動產及ヒ不動產ニ關スル物權其他登記スヘキ權利ハ其目的物ノ所在地法ニ依ル

前項ニ掲ケタル權利ノ得喪ハ其原因タル事實ノ完成シタル當時ニ於ケル目的物ノ所在地法ニ依ル

○內外國人ノ取引ト雖モ內國ニ於テ締約シ履行スヘキモノニシテ之カ履行ノ訴訟ヲ內國裁判所ニ提起シタルトキハ之ニ內國ノ出訴期限規則ヲ適用スルハ相當ナリ

民法施行法

第四條　證書ハ確定日附アルニ非サレハ第三者ニ對シ其作成ノ日ニ付キ完全ナル證據力ヲ有セス

○民法施行法第四條ノ規定ハ證書作製ノ日附ニ付キ爭アル場合ニ適用スヘキモノニシテ其日附ニ付キ爭ナキ場合ニ適用スヘキモノニ非ス

第二十九條　民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル債權ハ時效ニ因リテ消滅シタルモノト看做ス

○民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル事實アル以上ハ債權辨濟ノ主張ナキモ單ニ出訴期限ノ援用アルニ於テハ民法施行法第二十九條ノ規定ニ依リ其債權ハ時效ニ因リ消滅シタルモノト看做スヲ得ヘシ

（同主旨）

民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル債權ニ付キ辨濟ノ事實ヲ申立テサルモ出訴期限ヲ援用シタル以上ハ民法施行法第二十九條ニ基キ消滅時效ヲ適用スヘキモノトス

第三十二條　前條但書ノ規定ハ當法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス

○嫡出子否認ノ訴ハ民法施行以前ニ在テハ別ニ出訴ニ關スル期限ノ規定ナク民法ニ於テ始メテ之ヲ定メラレタルモノナルカ故ニ民法施行以前ニ夫カ子ノ出生ヲ知リタルモノニ付テハ民法施行法第三十四條ニ依リ其第三十二條及ヒ第三十一條但書ノ規定ヲ準用シ民法施行ノ日ヲ以テ起算點ト爲スヘキモノトス

第三十七條　民法又ハ不動産登記法ノ規定ニ依リ登記スヘキ權利ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

○登記ナルモノハ本登記ト假登記トヲ問ハス總テ第三者ニ對抗スルノ效力ヲ有ス隨テ民法施行法第三十七條ニ所謂登記ナル文字ニハ本登記ノ外尚ホ假登記ヲモ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス

第四十四條　民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付キ當事者カ民法第二百六十八條第二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ設定ノ時ヨリ二十年以上民法施行ノ日ヨリ五十年以下ノ範圍内ニ於テ其存續期間ヲ定ム

地上權者カ民法施行前ヨリ有シタル建物又ハ竹木アルトキハ地上權ハ其建物ノ朽廢又ハ其竹木ノ伐採期ニ至ルマテ存續ス

地上權者カ前項ノ建物ニ修繕又ハ變更ヲ加ヘタルトキハ地上權ハ原建物ノ朽廢スヘカリシ時ニ於テ消滅ス

○民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付テハ地上權ノ設定ヲ知ラスシテ其土地ヲ買受ケタルモノアルモ民法施行法第四十四條第二項ニ依リ之カ地上權ハ其建物ノ朽廢ニ至ル迄存續スヘキモノタリ

○民法施行法第四十四條第一項第二項ハ民法施行前ノ設定ニ係ル地上權ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付キ當事者ヨリ存續期間指定ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ之ヲ定ムヘキ標準ヲ示シタルモノナリ

○民法施行法第四十四條ノ規定ハ慣習ノ存在スル場合ニ適用スルコトヲ得ス

○地上權存續期間指定ノ請求ハ民法施行前ヨリ地上權者カ有スル建物ノ現存スル場合ニ於テハ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

第五十三條　民法施行前ヨリ債務ヲ負擔スル者カ其施行ノ後ニ至リ償務ヲ履行セサルトキハ民法ノ規定ニ從ヒ不履行ノ責ニ任ス

前項ノ規定ハ債權者カ償務ノ履行ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

○民法施行法第五十三條中民法ノ規定ニ從ヒ不履行ノ責ニ任ストハ民法第四百十二條以下ニ規定シタル遲滯及ヒ損害賠償ノ責ニ任スルノ謂ニ外ナラス

第六十七條　民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子緣組ノ取消ノ原因タルヘキトキハ其婚姻又ハ養子緣組ハ之ヲ取消スコトヲ得但其事實カ既ニ民法ニ定メタル期間ヲ經過シタルモノナルトキハ此限ニ在ラス

○民法施行法第六十七條ハ民法ニ因リ養子緣組取消ノ原因トナルヘキ事實ニシテ民法施行以前ニ於テモ取消ノ原因トナリシモノニ限リ其取消

ノ請求ヲ爲スコトヲ許スノ法意ナリトス

○民法施行法第六十七條ノ趣旨ハ民法施行前ニ生シタル事實ニシテ當時ノ法令若クハ慣習ニ於テ適法トセス且民法ニ於テ養子縁組取消ノ原因タルヘキモノアルトキニ限リ民法施行ノ後モ其縁組ヲ取消スコトヲ得トノ法意ニ過キス故ニ縁組當時適法ナルモノハ民法施行法第六十七條ニ依リ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス　三二　九　二三

第六十八條　民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組ト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ生ス

○民法施行法第六十八條ハ民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組ハ民法施行ノ日ヨリ以後ニ非サレハ民法ニ定メタル效力ヲ生セサルコトヲ規定シタルモノトス　三二　九　三七

第六章　相續編ニ關スル規定

○民法施行前ニ在テハ法定ノ推定家督相續權ヲ抛棄シ得サルモノニ非ス　三三　六　一三九

第三十八條　商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ舊商法ノ規定ヲ適用ス

第二十三條、第二十五條乃至第三十二條及ヒ前三條ノ規定ハ前項ノ會社ニ之ヲ準用ス

商法施行法

○商法施行法第三十八條第一項ノ規定ハ他ノ規定中ニ特別ノ明文ナキ限リハ商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ總テ舊商法ノ規定ヲ適用スヘキ法意ナリ　三四　七　六七

第五十三條　商法施行前ニ設立シタル株式會社カ登記シタル事項中ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲ササリシトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

舊商法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ商法施行前ニ生シタル場合ニ於テハ舊商法ニ登記期間ノ定ナキトキニ限リ前項ノ規定ヲ準用ス　三三　二　二二

○商法施行法第五十三條ニ規定セル登記ヲ懈怠シタル爲メ過料ニ處セラレタル事件ニ對スル抗告ノ手續ハ民事訴訟法第四百五十六條ヲ準用スヘキモノトス　三三　二　二二

商法施行條例

第二十四條　商法及ヒ本條例ニ依リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ其期間ハ裁判書ノ送達ヲ受ケタル日ノ翌日又ハ裁判ノ言渡ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シテ七日トス　三四　四　八五

○商法施行條例第二十四條所定ノ即時抗告期間ノ起算點ハ口頭辯論ヲ經サル決定ニ付テハ裁判書ノ送達ヲ受ケタル翌日ヨリ又口頭辯論ヲ經タル決定ニ付テハ言渡ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス

民事訴訟法施行條例

第七條　民事訴訟法實施前既ニ勸解ヲ出願シ未タ完結ニ至ラサル事件ハ民事訴訟法第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所繼續シテ之ヲ完結スルコトヲ得

○民事訴訟法施行條例第七條ハ民事訴訟法實施前ニ受理シタル勸解ハ同法第三百八十一條ニ從ヒ和解ノ手續ヲ以テ完結スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ勸解トシテ受理シタル訴訟ノ實體ヲ變換シ和解ト爲スノ精神ニ非ス

刑法

第一條　凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト爲ス

一　重罪
二　輕罪
三　違警罪

○刑事トハ刑法ニ規定セル重罪輕罪違警罪ノ三種ノ刑ヲ謂フ

第四十七條　數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

○刑法第四十七條ノ原則ハ刑法上ノ犯罪ニ附帶スル民事犯罪ニノミ適用スヘキモノニ非スシテ單純ノ民事犯罪ニモ應用スヘキモノトス

刑法附則

（續）

係爭事件ノ性質刑事裁判ノ確定ニ依ルニ非サレハ之ヲ定ムヘカラサルトキハ先ツ刑事裁判進行ノ結果如何ヲ極メ果シテ其性質贓物ナルニ於テハ刑法附則第五章ノ法條ニ準據スヘキモノナルニ未タ實施セサル商法ノ法理ヲ訊キ之ヲ判決ノ基礎ト爲シテ下シタル判定ハ違法タルヲ免カレス

刑法附則第五十六條ハ必スシモ質入期限中ノモノニ限レルニ非ス期限後ト雖モ質取人ニ其品物現在スルトキハ之カ還求ヲ拒ムコトヲ得ス

犯罪ニ關スル物件ナルヲ知ラスシテ質物ニ取リタルモ眞正ノ所有者ヨリ返還ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムヲ得ス

刑法附則第五十五條ノ所謂「贓物寄藏」シテ他ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買收シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルコトヲ得スト雖モ公商ニ限リ一ノ例外ヲ規定シタルモノナリ而シテ公商ニ由リテ買取シタルト競買ニ由テ買受タルトハ之ヲ同一ニ論スルヲ得ス

刑法附則第五十九條ノ但書ハ自己所有ノ家屋等ニ失火シ他ニ類燒セシメタル場合ト賃借ノ家屋等ニ失火シ之ヲ燒燬シタル場合トヲ問ハス均シク其損害賠償ノ責任ナキコトヲ規定セル法意ナリ

刑法附則第五十九條但書ハ倉敷料等ヲ領收シテ他人ノ物品ヲ保管スル營業者カ自己ノ過失ニ因リ火ヲ失シ其物品ヲ滅失セシメタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

刑法附則第五十五條ニ所謂公商トハ商事ヲ營業トスル權能ヲ有スル者ニシテ事實上公然商業ヲ營ム者ヲ指稱シ必スシモ官許ヲ得タル商業者ノミヲ謂フニ非ス從テ公署又ハ官署ニ對シ營業屆ヲ爲シ若クハ營業稅ヲ納メサルモノト雖モ尙ホ公商ト稱スルコトヲ得ヘシ

刑事上ノ制裁ト民事上ノ制裁トハ全ク其性質ヲ異ニスルニ依リ刑法第四百十四條ノ規定アレハトテ民事上ノ制裁モ失火ト同一ナラサルヘカラストノ論理ヲ生セス又刑法附則第五十九條但書ハ一ノ例外法ナルニ依リ之ヲ比附援引シテ明文以外ノ事實ニ適用スルコトヲ得ス

刑法附則第五十九條前段ハ犯人ハ勿論其民事擔當人ニ於テ損害賠償ノ責任アルコトヲ規定シ從テ同條但書ハ犯人及ヒ其民事擔當人共ニ失火ニ付キ損害賠償ノ責任ナキコトヲ規定シタルモノトス

刑事訴訟法

第一條　公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トスルモノニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フ

○公訴ハ以テ私訴免責時效ノ進行ヲ止ムヘカラス故ニ「公訴事件ノ結局マテ出訴期限ヲ中斷シタルモノト云ハサルヘカラス」ト判決シタルハ不法ノ裁判ナリ

第二條　私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償、賊物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス

○賊物ノ返還ヲ目的トシテ提起シタル私訴ニシテ犯罪ハ之ヲ賊物ナリト論定シ得サル事實ナリトスルモ附帶トシテ受ケタル裁判所ハ之ヲ以テ直チニ私訴ヲ斥クヘキモノニ非ス他ノ相當ノ理由ヲ以テ之カ判決ヲ與フヘキモノトス

第四條　私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラス公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ其公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴ニ參加スルコトヲ得

○犯罪ヲ原因トスル損害賠償ノ訴ハ公訴附帶ノ私訴トシテ刑事裁判所ニ若クハ單獨ノ民事訴訟トシテ民事裁判所ニ提起スルハ被害者ノ隨意ナリ

○公訴ニ附帶シテ提起シタル私訴ハ刑事訴訟法中特ニ民事訴訟法ノ規定ヲ適用スヘキコトヲ定メタル場合ノ外ハ總テ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ之ヲ審判スヘキモノトス

第十三條　被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人、告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルトキハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人、告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルトキ亦同シ

民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ム

ルコトヲ得

要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

○告訴人又ハ告發人ノ賠償責任ニ關シ刑事訴訟法ニ於ケルカ如ク特別ノ規定存スル以上此規定ニ依ルノ外告訴人ニ對シ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ス　三四

第百八十七條　裁判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ判決ヲ待タス直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本案ノ辯論ヲ停止ス

○管轄違ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シ本案ノ判決ヲ待タス直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得トハ直近上級ノ裁判所ニ上訴スルヲ得ルノ謂ニシテ第一審ヨリ直チニ上告スルヲ得ルノ謂ニ非ス　二四　九　一〇九

第三章　上告

○刑事附帶ノ私訴ハ刑事裁判所ニ上告スルモノトス　二五　二　二三

第六編　再審

○公訴ニ附帶スル私訴ノ確定判決ニ對スル再審ニ關シテモ刑事訴訟法ノ規定ニ從フヘク民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノニ非ス　三二　一　六一

戸籍法

○戸籍ハ身分ヲ證スル公正ノ簿冊ナルヲ以テ其記事ノ虚構ヲ證示セサル限リハ戸籍ニ依據シテ人ノ身分ヲ定メサルヘカラス　二七　〇　一八

○戸主退隱シ新戸主之ニ代リタル場合ニ於テ戸籍取扱官吏カ戸籍簿中前代戸主ノ名稱身分年齡ヲ抹消シ其傍ニ更ニ後代戸主ノ名稱身分年齡等ヲ挿入スルハ各地方一般ノ慣例ニ非ス故ニ之ヲ是認セル判決ハ不法ナリ　三一　六　一〇二

○戸籍ノ登記ヲ怠リタル行爲ハ每件ニ付キ罰スヘキモノトス　三二　八　一八

○戸籍吏ハ戸籍簿ノ記載事項ニ關シ事實ノ判斷ヲ爲シテ證明ヲ爲スノ權限ヲ有セス故ニ出生年月日ニ關シ戸籍吏自身ノ判斷ニ依レル事實ヲ揭載シタル書面ハ何等ノ證據力ナシトス　三二　九　六八

○戸籍吏ノ處分ニ對スル抗告ニ付テハ戸籍法第二百八條ノ規定ニ從ヒ抗告裁判所ノ裁判ニ對シ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキ一回限リ爲スコトヲ得ルニ止マリ第二抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ如何ナル理由ヲ以テスルモ更ニ抗告スルヲ許サヽルモノトス　三三　三　四七

○戸籍上入夫ノ登記又ハ之カ取消ヲ申請シ得ヘキ者ハ戸籍法第百六條ノ場合ヲ除ク外當事者タル夫婦又ハ其法定代理人ニ限リ第三者カ之ヲ申請シ得ヘカラサルコトハ民法及ヒ戸籍法ノ精神ニ徵シテ明カナレハ第三者ニ對シ訴外人ノ戸籍上ニ於ケル入夫登記ノ取消ヲ請求スルカ如キ

ハ法律上許スヘキモノニ非ス

○同居ノ場合ニ於テ一家ニ二人ノ戸主アルモ其家屋内ニ在ル物品ニシテ同居者ノ所有ニ屬スルコト判然セサルモノニ付テハ主タル居住者ノ所有ト推定スヘキモノトス　三三　六　一三一

○同居者ハ戸籍ニ關スル現行ノ制規上主タル居住者ニ附從シテ居住スルモノニシテ同等ノ地位ヲ有スルモノニ非ス　三三　一〇　一三七

○戸籍法施行前ニ於ケル相續ト雖モ同法施行後ハ相續人ヨリ相續届ヲ爲スヘキモノナリ隨テ戸籍吏ハ其届カ同法ノ規定ニ反セサル限リハ故障ヲ爲ス者アルニ拘ハラス其登記ヲ爲サヽルヘカラス　三三　一〇　一三七

明治三十三年法律第七十二號

○明治三十三年法律第七十二號ハ當事者ノ契約上ノ意思ヲ知ルヲ得サル場合ニ於ケル規定ニ付キ當事者ノ意思ヲ知リ得ヘキ場合ニハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス　三四　六　一

○他人ノ所有地ノ上ニ建物ヲ所有シ土地ヲ使用スル者ハ明治三十三年法律第七十二號ニ依リ地上權者タル推定ヲ受クヘシト雖モ土地所有者ニ於テ之カ反證ヲ擧ケタル場合ニ於テハ其法律關係ノ賃借ナリヤ地上權ナリヤヲ決スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス　三三　一〇　五〇

○明治三十三年法律第七十二號第二條第二項ニ所謂本法施行前ニ善意ニテ取得シタル第三者トハ民法施行法第三十七條ノ一年ノ期間内ニ地上取得セントスル地所ニ付キ登記簿上地上權者ナキ事實ヲ確メ善意ニテ地上權ヲ取得シタル者ヲ云フ　三四　三　四八

（同主旨）

明治三十三年法律第七十二號第二條第二項ニ所謂善意ニテ取得シタル第三者トハ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ他人ノ土地ヲ使用スル者カ民法施行法第三十七條ノ一年ノ期間内ニ地上權ノ登記ヲ爲サヽリシヨリ其者ニ於テ地上權ヲ抛棄シタルモノト信認シ當時ノ法律ヲ遵奉シテ其土地ノ所有權其他ノ權利ヲ取得シタル第三者ヲ謂フ

○明治三十三年法律第七十二號第一條ニハ單ニ本法施行前トアルニ依リ同法律施行前ニ於テ建物ヲ所有スル爲メ他人ノ地所ヲ使用スル者ハ民法實施前ヨリナルト同法實施後新ニ借地シテ家屋ヲ建設シタル場合ナルトヲ問ハス右第一條ノ適用ヲ受クヘキモノトス　三四　一　五〇

民事訴訟用印紙法

○當初各別ニ相當印紙ヲ貼用シテ提起シタル二箇ノ訴訟ト雖モ第一審裁判所カ審理ノ便宜上之ヲ併合シ共同訴訟人ト同一ノ手續ニ依リ判決シ　三四　二　八六

再ヒ之ヲ分ツノ必要ナキトキハ其控訴ニ於ケル訴訟印紙ハ全部ノ金額ニ相應スル額ヲ貼用スルヲ相當ナリトス　二五　五　一三〇

○法廷ニ出頭シタル一方カ相手方闕席ノ儘判決アリタシトノ申立及ヒ故障棄却ノ申立ノ如キハ口頭辯論ノ一部ニ屬シ書面ヲ要スル限リニ在ラス從テ印紙ノ貼用ヲ命スヘキモノニ非ス　二七　〇　八二

○訴訟目的物ノ實體ヲ區別スルヲ得サルモノハ之ニ對シ附帶控訴ヲ爲スモ別ニ印紙ノ貼附ヲ要セス　二七　〇　一六三

○訴訟書類ニ貼用ノ訴訟印紙不足ナルトキハ加貼ヲ命シ遵ハサルトキハ棄却スヘキモ直チニ棄却スルハ不法ナリ　二八　二　五六

（同主旨）

原告カ本訴ヲ百圓以上ノモノナリト認メタル以上ハ民事訴訟用印紙法第十一條但書ノ規定ニ依リ訴狀ヲ有效ナラシムル爲メ相當印紙ヲ加貼セシメ若シ之ヲ肯セサルニ於テハ第一審裁判ヲ無效ナラシメ且控訴ヲ棄却スヘキモノナリ　二八　〇　六八

○訴訟書類ニ印紙ノ貼用不足アルトキハ裁判所ハ何レノ審級ニ於テモ民事訴訟用印紙法ニ依リ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルコトヲ得　二八　三　一六

（同主旨）

訴狀ニ印紙ノ貼用不足アル場合ニ之ヲ加貼セシムルハ必ス各審級ニ限ルモノニ非スシテ何レノ審級ニ於テモ之ヲ爲スヲ得ヘキモノナリ故ニ印紙法第十一條但書ニ單ニ裁判所トノミアリテ下級審上級審ノ區別ヲ立テス便チ下級審ノ印紙不足ヲ上級審ニ於テ之ニ加貼セシメ得ルモノトス既ニ然ルトキハ下級審ノ判決ヲ不當ト認メタルモノト云フヲ得ス　二七　〇　二三一

訴訟ノ權利拘束中ハ下級審ニ於ケル印紙ノ不足ヲ上級審ニ至リ之ヲ貼用セシメ以テ有效ナラシムルモ不法ニ非ス　二八　〇　四七二

○壻養子縁組解除ト離婚ノ請求ハ二箇獨立ノ請求ナルヲ以テ之ニ相當スル訴訟印紙ヲ貼用セサルヘカラス　二八　五　七六

○附帶控訴ノ目的カ主タル控訴ト同一ノ訴訟物ナルトキハ民事訴訟用印紙法第四條ノ法理ニ照準スヘキモノニシテ同法第五條ニ遵由スルヲ要セス　三〇　二　二七

○訴訟救助ノ申請ニシテ許容セラレサルトキハ之ト共ニ提出セル無印紙ノ訴訟書類ハ無效ナルカ故ニ民事訴訟用印紙法第十一條ノ注意ヲ爲スヲ要セス其書類ヲ却下スヘキモノトス　三〇　三　一〇一

○財産權上ニ非サル訴訟ニ於テ其請求二箇以上ニ渉ルトキハ法律上合算スヘキ價格存セサルニ依リ單ニ其訴訟物ノ價格ヲ百圓ト看做シ之ニ相當スル印紙ヲ貼用スレハ足レリ　三〇　六　五四

○訴訟用印紙貼用ノ適否ヲ調査スルノ職權ハ裁判長ニ屬セスシテ裁判所ニ屬スルモノトス　三二　四　九一

○財産權上ノ訴訟ニ付テハ其給付ノ履行方法ノ單純ナルト複雜ナルトヲ問ハス總テ訴訟物ノ價格ニ應シテ民事訴訟用印紙ヲ貼用スレハ足ルモノトス　三三　三　一二六

○民事訴訟用印紙法ニ證據方法ノ異ナル毎ニ五十錢ノ印紙ヲ貼用スヘキ旨ヲ規定シタル所ナキヲ以テ二箇以上ノ證據調ヲ爲スヘキ場合ナルモ同時ニ同一ノ書面ヲ以テ其申立ヲ爲ストキハ五十錢ノ印紙ヲ貼用スレハ可ナリ　三四　九　五六

○裁判所カ民事訴訟法第百二十條ノ規定ニ從ヒ別異ノ原告ノ數箇ノ訴訟ノ辯論及ヒ裁判ヲ併合シタルトキハ其數箇ノ事件ハ民事訴訟用印紙法上一事件ト爲リタルモノト看做サヽルヘカラス　三四　一　五三

民事訴訟費用法

○訴訟費用ハ必要ニシテ且ツ現ニ費シタルモノナルヲ要スルハ訴訟費用法ノ精神ナリ　二八　〇　二七

○訴訟代理人カ出廷シタルトキハ其本人自ラ出廷スルト否トハ隨意ノ行爲ニシテ必要行爲ニ非ス故ニ本人出頭ノ費用ハ訴訟費用中ニ計算スヘキモノニ非ス　三〇　三　九三

○民事訴訟費用法第十五條ニ「本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル」トアルハ同法ニ全ク定メサル所ノ必要ノ費用ヲ指シタルモノトス　三一　一一　五四

非訟事件手續法

○株式會社カ登記ノ届出ヲ爲スコトハ其義務ニ屬スルモ此義務ハ登記官吏カ會社ヨリ差出シタル登記ニ關スル陳述書ヲ受理シタル時ヲ以テ終了シ其後ノ行爲ニ關係ヲ有セサルモノトス　三一　六　一五

○株式會社ノ登記ニ關スル陳述書ノ適否ヲ審査シ之ヲ登記スルハ登記官吏ノ責任ヲ以テ爲スヘキ登記官廳ノ行爲ニ屬シ會社ノ責任ニ屬セス　三一　六　四二

○非訟事件手續法第二百九條ノ規定ハ現行商法及ヒ商法施行條例ニ牴觸ノ條項アルモ之ヲ無效トセス　三一　九　三九

○親族會員中無資格者アルヲ理由トシ其選任ニ對シテ抗告ヲ爲シタル場合ニ於テハ縱令親族會ノ解散シタル後ト雖モ之ヲ取調ヘ果シテ其事實アルニ於テハ該選定ノ決定ヲ廢棄スヘキモノトス　三二　一　一四

○非訟事件手續法ニ依ル再抗告ニ付キ與ヘタル裁判ニ對シテハ更ニ抗告スルヲ許サス　三三　一　三四

非訟事件手續法第二十四條ニ依ル抗告ハ第一抗告裁判所ノ裁判ニ對シ一回限リ許サルトニ止マリ第二抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ如何ナル理由アルモ更ニ之ニ對シテ抗告ヲ爲スコトハ法律上許サヽルモノトス

非訟事件ニ付テハ再抗告裁判所ノ裁判ニ對シ更ニ抗告スルコトヲ許サス

非訟事件手續法第二十四條ニ依ル抗告ハ第一抗告裁判所ノ裁判ニ對シ一回限リ之ヲ爲スコトヲ得ルニ止マリ第二抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

人事訴訟手續法

○訴狀ニ婚姻無效婚姻取消離婚ノ訴ヲ列記シタルトキハ人事訴訟手續法ニ所謂各別ナル三箇ノ訴ヲ併合シタルモノトス

○婚姻事件ニ於テハ訴訟提起ノ後ニ生シタル事項ト雖モ第一審又ハ控訴審ノ辯論終結ニ至ルマテ採リテ以テ請求ノ原因ト爲スヲ得ヘキコトハ人事訴訟手續法第八條及ヒ第九條ニ依リ明カナル所ナリトス

○準禁治產ノ宣告ニ服セサル原告カ準禁治產ノ申立人ヲ相手方ト爲シタルヤ否ヲ調査スルニ該宣告ノ決定書ニ依ラスシテ徒ニ其申立書ニ記載シタル申立人ヲ悉皆相手方ト爲サヽルヲ理由トシテ訴ヲ却下シタルハ不法ナリ

家資分散法

○家資分散宣告後ハ其負債ノ辨償ヲ了ヘスト雖モ私權ノ行爲ヲ停止スルニ非ス唯公權ヲ失フノミ

○家資分散ノ決定ニ對シ不服アルトキハ即時抗告ヲ爲スヘキモノトス若シ抗告ノ手續ニ據ラスシテ法定ノ不變期間ヲ徒過シタルトキハ其決定ハ茲ニ確定ス此場合ニ於テ更ニ別箇ノ訴訟ヲ起シ以テ其確定效力ヲ取消シ得ヘキモノニ非ス

利息制限法

○既濟ニ屬スル利子ハ利息制限法ニ據リ引直スヘキモノニ非ス

○利息制限法ハ利息ヲ元金ニ結ヒ證書ヲ改正セシモノヲモ引戻ノ旨意ニ非ス

○利子ト雖モ之ヲ元金ニ更改シタルトキハ之ニ利息ヲ付スルハ相當ニシテ利息制限法ニ背反シタル複利ナリト云フコトヲ得ス

○利息制限法ハ金錢貸借ノ場合ニ限リ適用ヲ受クヘキモノトス

（同三三頁）

利息制限法ハ金銀貸借上ノ外適用スヘキモノニ非ス

取引所法

三三	二	五九	
三三	三	一三	
三三	三	四〇	
三四	四	九一	
三四	二	九四	
三四	四	四九	
二六	二	三九六	
二八	〇	三二四	
二五	一	八	
二五	一	三三	
二六	一	六四	
三四	九	一〇一	
三一	二	三〇	

○凡ソ賣買取引ヲ爲ストキハ其直取引ト定期取引トニ別ナク買受人ニ於テ其買受物品ヲ引取ルハ亦通例ナリ然ルニ原院カ各自買受米ヲ必ス引受クヘキトノ契約即チ米價ヲ騰貴セシムルノ目的ニ由リ締約シタルモノハ公益ニ害アル無效ノ契約ナリトノ旨ヲ以テ下シタル裁判ハ通例ノ事態ニ反スルモノトス通例ノ事態ニ反スルニモ拘ハラス別ニ說明スル所ナキニ於テハ不當タルヲ免カレス假ニ之ヲ相當ナリトセン乎則チ巨額ノ米穀ヲ賣買直取引シタルトキハ其取引ハ常ニ公益ニ害アルモノトシ之ヲ無效視セサルヲ得サルニ至ルヘシ　二七〇三二六

○米穀取引所カ明治二十六年法律第五號取引所法第三十六條ノ但書ニ依リ舊米商會所ヲ繼承スルニハ同法施行ノ日ヨリ二个月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲サヽルヘカラサルモ右期限內其手續ヲ爲シタルヤ否ヤニ付キ爭ナキトキハ進テ之ヲ調査スルヲ要セス　二八一一

○委託契約ハ義務不履行ニ付キ何時ニテモ取消スコトヲ得ヘシ　二八三一五六

○米穀賣買ノ解合ナルモノハ賣買契約ノ履行ニシテ之カ解除ニ非ス　二八五八一

○賣買ノ依託ヲ受ケタル米穀仲買人カ擅ニ解合ヲ爲シ其依託者ニ損害ヲ蒙ムラシメタルトキハ依託者ハ損害ノ賠償ヲ求ムルヲ得ヘキモ賣買ヲ取消シ保證金ヲ取戻スヲ得ス　二八五八一

○取引所仲買人カ他人ノ依頼ニ因リ爲ス取引ハ一種ノ委任行爲ナレハ一般委任ノ法則ニ從フヘシ而シテ委任ノ原則上受任者ハ委任ノ趣旨ニ反シテ行爲ヲ爲スヲ得ス　三一八一八

○取引所仲買人カ委任者ノ爲メニ商品ノ定期賣買ヲ爲シタル末其取引ノ停止トナリタル場合ニ於テ總解合ニ因リ委任セラレタル賣買ノ解除ヲ爲シ委任者ニ對シ其責任ヲ免カレントセハ之カ承諾アルカ又ハ公認セラレタル慣習法若クハ規約ニ依ルコトヲ要ス　三一八一八

○取引所仲買人カ委任者ノ承諾ヲ得ス且之ニ對シ何等ノ責任ヲ負フコトナクシテ定期取引ノ總解合ヲ爲シ得ヘキ一般ノ慣習ナシ　三一八一九

○取引所法第十條及ヒ第十一條ノ資格ヲ具ヘサル者カ他ノ仲買人ノ名義ヲ借リ取引所ニ於テ爲シタル取引ハ違法ナリ　三一九四九

○仲買人ノ名義ヲ借リタル者ニ對シ時機ヲ見テ取引ヲ爲スコトヲ依頼シ之カ爲メ金錢ヲ預クルモ之ヲ以テ直チニ違法ノ行爲ト爲スコトヲ得ス　三一九五〇

○甲取引所ニ於テ建米ノ手詰ヲ爲スニ當リ乙取引所ノ相場ヲ以テ賣買手詰ノ標準價格ト爲ス事ハ取引所法ノ許サヽル所ナリ　三一四一

○仲買人カ客ノ委託ヲ受ケ數度ニ價格ノ相違アル株ノ賣買ヲ爲シタル場合ニ於テ其平均代價ヲ通知スルハ異常ノ事柄ナルヲ以テ依頼者ノ承諾

ナキ以上ハ無效ナリ

○仲買人ハ株式賣買ノ委託ヲ受ケテ賣買ヲ爲ス者ナレハ委託者ノ代理人タルニ過キス故ニ委託者ト仲買人トノ間ニハ賣買契約存立スルモノニ非ス　三一四七二

○取引所ノ仲買人タルコトヲ得ルモノハ明治二十六年法律第五號取引所法第十條及ヒ第十一條ニ規定セル資格ヲ具備セサルヘカラス而シテ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ル者ハ同法第六條ニ規定セル其取引所ノ仲買人ニ限ル故ニ其資格ヲ具ヘサルモノカ他人ノ名義ヲ假リテ賣買取引ヲ爲スカ如キハ法律ノ許サヽル違法ノ行爲ナルヲ以テ之ヲ認メタル判決ハ不法ナリ　三一四五一三

○取引所仲買人カ他人ノ注文ニ依リ取引所ニ於テ取引ヲ爲ス事ハ一種ノ委任行爲ニ外ナラサルヲ以テ一般委任ノ法則ニ從フヘキモノトス　三一六二九

○取引所仲買人カ委任者ノ注文ニ依リ商品ノ定期賣買ヲ爲シタル末其取引ノ停止ト爲リタル場合ニ於テ賣買ノ解合ヲ爲スモ委任者ノ承諾ニ出テサル限リハ委任者ニ其結果ヲ對抗スルコトヲ得ス　三一六二九

○取引所仲買人カ取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ爲シタル取引ハ無效ナリトス　三一六九八

○仲買人カ委任ヲ受ケテ賣買ヲ爲ストキハ仲買人ト委任者トノ間ニハ委任關係ヲ生スルモノトス　三三一四八

○仲買人カ取引所ニ於テ買付ヲ爲スハ委任者ノ爲メナルヲ以テ委任者ニ對シ有效ニ轉賣スルニハ亦取引所ニ於テ之ヲ爲サヽルヘカラス　三三一四八

○取引所ニ於ケル定期取引ハ其契約期間ニ轉賣買戻アル場合ノ外契約期限ニ至リ其取引ヲ結了スヘキモノナレハ賣主カ其義務ヲ怠ル等ノ事實ニ因リテ期限後ニ至リ未結了ノマヽ存續スヘキモノニ非ス　三四三七八

○仲買人カ一旦取引所ニ於テ直取引ノ賣付ヲ爲シ翌日解約シナカラ預合ト稱シテ仲買人相互ノ間ニ於テ其取引ヲ結了セス後日ニ至リ轉買ト稱シテ買付ヲ爲シ以テ前ノ賣買ト後ノ賣買トノ差額取引ヲ爲スカ如キハ名ヲ直取引ニ借リテ定期取引ノ實ヲ行フモノト云ハサルヲ得ス　三四九一四九

明治二十六年勅令第七十四號

○取引所仲買人カ明治二十六年勅令第七十四號第十四條ノ法則ニ違背シタルトキハ取引所ニ於テ完全ニ賣買取引成立シタルモノト爲スヲ得ス　二八三一五六

○取引所ニ於ケル商品ノ直取引ハ明治二十六年勅令第七十四號ニ從テノミ成立シ同勅令第十二條第十五條規定ノ通リ契約當日ヨリ五日以内ニ

物品ト金錢トヲ授受シテ之ヲ履行スヘキモノニシテ其期限後ニ存續シ得ヘカラサルモノタリ而シテ同勅令第十三條ニ依レハ契約期間内ニ爲シタル轉賣又ハ買戻ヲ取引所ノ帳簿ニ記載スルカ如キハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

公證人規則

○公正證書ハ擅ニ調製シ得ヘキモノニ非サルヲ以テ一方カ認メサレハト　三一

テ證據ノ效力ヲ失ハス　二五

○公證人カ囑託者ノ依頼ニ應シテ公正證書ヲ作成スルハ囑託者間ニ成立シタル契約ヲ鞏固ナラシムル爲メノ一方法タルニ過キス決シテ普通契約ノ成立ニ關係ヲ有スルモノニ非ス公證人カ公證人規則第二十八條ノ規定ニ違背シタルモ其過失ノ效果ハ公正證書トシテ作成シタル證書ヲシテ公正ノ效力ヲ失ハシムルノミニテ之ヲ無效ニ屬セシムヘキモノニ非ス又當事者ニ對シ賠償ノ責ニ任セス　二八

執達吏規則

○執達吏ハ執達吏規則第二條ニ依リ當事者ノ委任ニ因リ告知及ヒ催告ヲ爲スヲ得ヘシ故ニ其爲シタル催告ハ固ヨリ有效ナリ　三一

○執達吏ハ執達吏規則第二條ニ依リ催告ヲ爲スノ職權アルヲ以テ其爲シタル催告ハ有效ナリ　三二

土地臺帳規則

○土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄スルヲ目的トスルモノニシテ土地所有權ノ所屬及ヒ其異動ヲ確認スルヲ目的トスルモノニ非ス　二九

訴願法

○明治二十三年法律第百五號ニ依レル訴願ハ行政廳ノ處分ニ對シ之ヲ爲スモノニシテ私法上ノ爭ニ付キ提起スヘキモノニ非ス　二七

○行政官ノ土地官民有區分ノ査定ニ不服ナレハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ヘキモ其不服ノ理由ハ普通訴訟ニ對スル防禦方法ト爲スコトヲ得ス　二八

行政裁判法

○市町村長ニ對スル行政訴訟モ亦從前ノ如ク取扱フモノトス　二五

○行政裁判ニシテ裁判所カ偶〻内閣ノ裁可ヲ經サルモ行政訴訟ノ性質ニ變更ヲ及ホスヘキ理由アラス但其裁判ノ效力如何ノ問題ニ屬スルノミ　二五　三

○行政裁判所ハ土地官民有區分ニ關スル行政廳ノ處分ノ當否ヲ判斷スルニ止マリ民事上其所有權ノ所屬ヲ絶對ニ確定スルモノニ非ス　三二　一四〇

印紙税法

○明治十七年布告第十一號證劵印税規則ハ明治三十二年法律第五十四號印紙税法ニ因リ廢止セラレタルヲ以テ該規則第四條ノ制裁ハ全ク廢止セラレタルモノトス故ニ無印紙若クハ印紙貼用不足ノ證書帳簿ト雖モ民事裁判上證據トシテ採用スルモ妨ケナキモノトス　三三　六四

○無印紙又ハ貼用印紙不足ノ證書類ト雖モ民事裁判上之ヲ受理スルニ妨ケナシ　三三　九一〇八

町村制

○一村公共ノ財産ニ係ル處分ハ村會ノ議決ニ付スヘキモノトス　二五　五九

○兩村數區ニ渉ル營造物ハ一區限リノモノニ非サルヲ以テ之カ爲メ町村制ニ依リ區會ヲ設クルコト能ハス從テ之ニ關スル契約モ亦區會ノ議ニ付スヘカラサルモノナリト訴論スルモ裁判上既ニ區會ニ付スヘキモノナルヲ是認シ攻擊ヲ斥ケタル上ハ縱令直接ニ利害ヲ感受スヘキ住民ナリト雖モ公共ノ機關タル區會ヲ差措キ一己隨意ニ締約スヘキ權能ヲ有セス　二六　二三四

○町村制第九十九條及ヒ第百十四條ノ規定ニ於テ區内ノ一小分ナル組ノ共有財産ナリトノ主張ハ町村内ノ一部ノ共有ナリトノ主張ト其意義ヲ異ニセス　二九　一八

○村長代理ノ資格ニ於テ爲シタル助役ノ處分ハ村長自ラ爲シタルト同一ナルヲ以テ此處分ノ取消ハ村長ニ係リ訴求セサルヘカラス　二九　二三

○町村内ノ區又ハ一部ノ所有財産ハ町村制第百十四條ニ依リ其代表者タル町村長ノ管理ニ屬シ之ニ關スル訴訟能力ハ町村長ニ限リ存スルモノトス　二九　九一〇五

（同上）
町村内ノ一部タル大字所有ノ財産及ヒ營造物ハ町村制第百十四條第百十五條ニ依リ其町村長ニ於テ之ヲ管理スヘキモノトス　二九　九六四

○町村内一部落ノ用水使用權ハ町村制第百十四條ニ所謂財産若クハ營造物ニ非ス故ニ其町村長ノ管理ニ屬セス　二九　一〇四

○町村内ノ部落ハ法律ノ規定ナキニ依リ法人ナリト云フヲ得ス　二九　一一　六五

（同法三号）
町村内ノ部落ハ町村制第二條ノ如キ明文ナキヲ以テ之ヲ法人ト云フヲ得ス　二九　九　四五

○町村長ハ其町村ノ内外ヲ問ハス區ナル法人以外ノ者ニ對シ區ヲ代表シ區ノ名義ヲ以テ其訴訟並ニ和解ニ關スル事務ヲ擔任スル職務權限ヲ有ス　三〇　二　五一

（同法三号）
町村制第六十八條第七號、外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ云々」ノ規定ハ町村外ノ者ニ係ル場合ナルト町村内ノ者ニ係ル場合ナルトヲ問ハス外部即チ團體以外（部内ノ者ト雖モ訴訟ノ對手人ナルトキハ團體以外ノ者ト云ハサルヲ得ス）ニ對シ團體ヲ代表シテ或行爲ヲ爲シ得ヘキコトヲ示シタルモノナリ　二七　〇　二六二

町村長ハ町村制第六十八條ニ依リ其部落ヲ代表シ其名義ヲ以テ訴訟並ニ和解ニ關スル事務ヲ擔任スル職務權限ヲ有ス　二九　九　四五

町村長ハ其町村部落ニシテ別ニ區域ヲ存シテ一區ヲ爲ストキハ其所有財産ニ關シ其部落ヲ代表シ部落ノ名義ヲ以テ訴訟ヲ爲スコトヲ得　二九　一一　六五

○町村内ノ一部落ハ法人ナリ從テ法律上無能力者ナルニ依リ其部落ニ關スル法律行爲ハ法律上代表者タル町村長ニ委スルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス　三〇　三　三〇

○町村ノ合併ニ起因スル大字即チ部落カ財産ヲ有スルトキハ公法上其部落ニ法人格ヲ授與ス　三〇　三　一一四

○此法人ハ所謂存在ニ因ル人格ニシテ別ニ手續ヲ要セス町村制ノ實施ト同時ニ公認セラレタルモノトス　三〇　三　一一五

○此法人ノ代表機關ハ其所屬町村長ナリトス　三〇　三　一一五

（同法三号）
町村内ノ區ハ其特別財産ニ付テハ獨立ナル一個ノ法人タル資格ヲ有ス

○養水ニ必要ナル樋管土手其他ノ工事ニ關スル費用ヲ町村内ノ部落全體ニ於テ負擔シタル以上ハ其水路ハ町村制第百十四條ニ所謂營造物ナリトス　三〇　二　五一

○一村内ノ部落カ町村制第百十四條ニ依リ公法人タル資格ヲ認メラレントスルニハ必ス其財産所有ノ事實ヲ以テ要素ト爲サヽルヘカラス然レトモ其所有タルヤ必スシモ實際其物ヲ握有スルトキノミニ限ラス總テノ所有ノ場合ニ之ヲ適用シ得ヘキモノナレハ部落カ係爭物ヲ以テ自己ノ所有ナリト主張スルトキモ亦其主張ニ基キ之ヲ自己ノ所有ト看做シ公法人タル資格ヲ以テ出訴スヘキハ當然ナリ　三〇　六　七一

○村長カ村ノ爲メニ繰替ヲ爲シタル金圓ハ村會ノ議決ヲ竢ツニ非サレハ　三一　二　五七

村債ト爲スヲ得サルモ有給村長ノ月給及ヒ旅費ノ如キハ當然村ノ負擔ニ屬スヘキモノトス

○村會ハ一村ノ機關ナルモ一村內ノ區又ハ一部落ハ區會條例ヲ設ケ別ニ其固有ノ機關ヲ有スルコトヲ得ルモノナレハ縱令村會カ一部落ノ爲メニ認諾ヲ爲シタルコトアリトスルモ其部落ニ對シテハ毫モ認諾ノ效力ヲ生スルモノニ非ス

○町村制中名譽職ノ退職手續ニ關スル規定ナシ故ニ名譽職村長ヨリ辭表ヲ提出シタルトキハ其提出ト同時ニ直チニ退職ノ效果ヲ生ス

○公法人ト雖モ法令ニ依リ特ニ禁止セサル限リハ商行爲ヲ爲シ得ヘシ故ニ市町村モ亦市町村制ニ之カ禁止ノ規定ナキヲ以テ商行爲ヲ爲シ得ルハ當然ナリ

○町村會ハ町村ノ機關ニシテ其町村內ノ區ノ機關ニ非サルカ故ニ町村制第百十五條ニ依リ町村長カ其區有財產ノ管理者ト爲リテ訴訟ヲ爲スニ當リテハ機關ノ異ナリタル町村會ノ決議ニ依ルヘキモノニ非スシテ其區會ノ決議ヲ經サルヘカラス

○町村組合ハ公共團體タル各町村以外ニ於テ別ニ公共團體ヲ組成スルコトヲ認メラレタルモノナレハ其町村組合ノ事務ハ處分行爲ナルト將タ

管理行爲ナルトニ依リ其處理ノ權限ヲ異ニスヘキ道理ナシ從テ町村組合ノ代表機關ハ共有財產ノ處分行爲ニ屬スル事件ト雖モ組合町村ヲ代表シテ訴訟ヲ爲シ又ハ訴訟ヲ受クルノ權限ヲ有スヘキモノトス

○同一町村內ニ在ル區ト區トノ間ノ訴訟ニ付テ各區會ノ決議ニ依リ同一町村長カ兩區ヲ代表スルハ妨ケナキモ町村會ノ決議ニ依リ區ヲ代表スヘキモノニ非ス

(同三三号)

法人ノ代表者タル町村長ハ訴訟上同時ニ原告トナリ又被告トナルノ資格ヲ有ス

○町村長カ町村會ノ決議ニ因リ區ヲ代表シテ提起シタル訴訟ニ於テ區會カ其行爲ヲ追認シタルトキハ有效ニ資格ノ欠缺ヲ補正シタルモノナリトス

○町村長カ其町村又ハ町村內ノ區ノ土地保護ニ關スル事業トシテ水利土功ニ付キ施設シタル工事ハ行政事務ノ執行ト推定スヘキモノトス從テ其工事排除ノ請求ハ行政訴訟ノ方法ニ依ルヘキモノニシテ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニ非ス

○町村制第百十四條ハ町村內ノ區又ハ其一部落カ法人タルノ性格ヲ具フルトキハ郡參事會ヲシテ區會若クハ區總會ヲ設ケシムルコトヲ規定シ

タルモノニシテ之ヲ設クルト否トヲ郡參事會ニ一任シ其設ケナキ場合ニ於テ町村會ヲ其機關ニ充テシムルカ如キ法意ト解釋スルヲ得ス　三四　五　八四

○行政處分ナルモノハ行政官吏カ行政法規ノ範圍内ニ於テ爲ス處分ヲ指スモノナレハ村内ノ申合規則ニ依リ村ナル法人ノ爲シタル行爲ノ如キハ縱令郡長ノ認可ヲ得タルニモセヨ之ヲ行政處分ト爲スヲ得ス　三四　九　一三一

○村長ハ區ノ代表者トシテ區有財産ニ關スル訴訟行爲ヲ爲スニハ特別授權ニ關シ區ノ機關タル區會ノ議決ヲ經サルヘカラス　三四　一〇　六四

○町村制ハ一定ノ場合ニ必ス區會又ハ區總會ヲ設クヘキコトヲ規定シタルモノニシテ之ヲ設クルト否トヲ區ノ隨意ニ任セタルモノニ非ス　三四　一〇　六四

○町村又ハ其一部落タル區カ訴訟行爲ヲ爲スニハ其原告タルト被告タルトヲ問ハス特別授權ニ付キ町村會又ハ區會ノ議決ヲ要スルモノトス　三四　一〇　六五

（同三三条）

町村長カ被上訴者トナリテ訴訟行爲ヲ爲スニハ特別授權ニ付キ町村會又ハ區會ノ決議ヲ要セサルモノトス

○町村又ハ區カ被告トナリタル場合ニハ其町村又ハ區ハ應訴ノ義務アリ故ニ其代表者タル町村長ニ町村會又ハ區會カ訴訟行爲ヲ爲スヘキ權限ヲ付與セサルモ町村長ハ當然被告タル地位ヲ免脫セラルヘキモノニ非ス　三四　一〇　六五

○町村長ハ訴狀ノ送達ヲ受クルニ付テハ特別ノ授權ヲ要セス　三四　一〇　六五

區町村會法

○聯合區町村會ハ行政上ノ必要ニ應シ隨時開設セラルヽ行政組合ニシテ其管理者タル郡區長ハ明治十七年第十四號布告區町村會法第四條ニ準據シ其評決ヲ施行スル職務權限ヲ有ス　三四　六　一八

○聯合區町村會ノ管理者ハ其評決ノ必要ニ應シ聯合區町村會ナル集合名稱ノ下ニ他人ト契約スルコトヲ得ヘク隨テ之ニ起因スル紛爭其他目的事件ノ關係ヨリ生スル諸般ノ爭訟ニ付テモ右集合名稱ノ下ニ於テ裁判上原告トナリ又被告トナルコトヲ得　三四　六　一九

酒造稅法

○酒造稅法第十三條ニ依リ納稅ノ擔保ニ供シタル抵當ノ設定行爲ハ行政法ニ基キタル徵收手續上ノ關係ニシテ民事上ノ關係ニ非ス故ニ其抵當ノ釋放拒絕ニ起因スル爭訟ノ如キハ行政上ノ處置ノ當否ヲ爭フコトニ原因スルヲ以テ司法裁判所ニ於テ受理スヘカラサルモノトス　三五　九　八三

水利組合條例

○水利組合ノ管理者タル郡長若クハ市町村長カ水利組合條例ニ基キ施行シタル工事ハ水利組合ノ行政廳ノ行政處分ニ該當スル故ニ其工事施行ニ依リ縱令一私人ノ財産上ニ影響ヲ及ホスモ公法上所有權ノ制限ナルヲ以テ其處分ノ排除ヲ求ムル訴訟ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セス　三〇　四　一二四

○水利組合條例ニ基キ組成シタル水利組合ハ公法人ニシテ其事務ハ行政事務ナルカ故ニ該組合カ其本分ノ行爲トシテ執行シタル工事ヲ不法トシ其廢止變更ヲ請求セントスルニハ行政訴訟ノ方法ニ依リ之カ救濟ヲ求ムヘキモノトス　三三　六　四二

農工銀行法

○農工銀行法第四十四條第三項但書ノ趣旨タルヤ監理官ハ其資格ニテ議決ニ加ハルコトヲ得スト云フニ過キスシテ株主タルノ資格ヲ以テ株主ノ權利ヲ行使スル場合ヲモ制限シタルモノニ非ス　三四　九　一六八

商標法

○舊商標條例第二條第三號及ヒ商標法第二條第五號ヲ適用スル場合ニ於テハ或者カ其商標ノ登錄ヲ受クル前ニ於テ一人ニテモ他ニ之ト同一若クハ類似ノモノヲ使用スレハ足ル必スシモ其商品カ世間普通ノ名稱ヲ以テ販賣セラルヽコトヲ要セサルモノトス　三四　六　三三

○他人カ登錄ヲ受ケタル商標ヲ無效ナリト主張シ之ヲ無效トスル爲メ審判ヲ請求スルコトヲ得ルハ法律カ許シタル場合ニ限ル　三四　一〇　一三八

特許法

○特許法第二條第四號ニ特許出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノトアルハ特許ニ依ラスシテ或發明カ公ニ知ラレ又ハ公ニ使用セラルル場合ノミナラス特許ニ依リテ公ニ知ラレタルモノヲモ包含スルモノトス　三三　二　九六

○特許局ノ審決ニ對シ上告ヲ爲シ得ヘキ事件ハ特許法第三十五條ニ規定セラルヽ通リ同法第二十八條第二項第二十九條及ヒ第三十條ノ請求ニ因ル審決ニ對シ不服ヲ唱フルトキニ限ル而シテ同法第二十八條第一項ノ請求ニ因ル審決ニ付テハ上告ヲ許シタル規定ナシ　三四　五　六

日獨通商航海條約

○改正日獨通商航海條約第十七條ニ定ムル特權ハ其實施ト同時ニ最惠國條款ニ從ヒ米國人ニモ付與セラレタルモノト解釋セサルヘカラス　三四　四　一

會計法

○會計法第二十五條ニ所謂前金トハ工事進行中即チ工事ノ出來形ヲ認メサルニ先チ支拂フ所ノ金圓ヲ指示スルモノニシテ會計規則第六十七條ニ基ク內渡金即チ工事完濟前其既成ノ部分ニ相當スル金圓ノ支拂ト同一ニ非ス　二八　三　一七

不動産登記法

○當事者ノ認諾アリト雖モ登記法中登記スヘキ規定ナキトキハ裁判所ニ於テ本登記ヲ爲スヘキコトヲ言渡スヘカラサルモノトス　三三　九　二六

○登記ナルモノハ本登記ト假登記トヲ問ハス總テ第三者ニ對抗スルノ效力ヲ有ス隨テ民法施行法第三十七條ニ所謂登記ナル文字ニハ本登記ノ外尙ホ假登記ヲモ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス　三三　九　九七

○假登記權利者カ不動産登記法ニ依リテ假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ自ラ進ンテ本案ニ付キ訴ヲ提起シ得ヘキモ民事訴訟法ノ假處分ノ規定ニ準據シテ假登記義務者ヨリ其權利者ニ對シ本案ノ訴訟ヲ起サシムルコトヲ求メ得ヘキモノニ非ス　三三　一〇　七三

○不動産登記法ノ假登記ニ於ケル假處分ト民事訴訟法ニ於ケル假處分トハ法律上其性質ヲ異ニス而シテ不動産登記法ニ依リ假登記ヲ爲シタル者ハ自ラ進ンテ本案ニ付キ訴ヲ提起スルコトヲ得　三三　一一　一二五

○登記官カ抵當權設定ノ登記ヲ爲シ其設定ノ契約證書ニ登記濟ノ旨ヲ記入シタルトキハ其記入ノ部分ハ官吏職務上ノ記載ニ係ルヲ以テ之ヲ公正ノ文書トシテ論スルコトヲ得ヘキモ此記入ノ爲メ其他ノ部分マテ公正ノ文書ニ變スルモノニ非ス　三四　五　一〇〇

○地上權及ヒ永小作權登記請求ノ訴訟ヲ提起セントスルニ當リ其權利ノ保全方法トシテ假登記ヲ申請スルヨリモ寧ロ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ假處分ノ申請ヲ爲シ裁判所ヲシテ同法第七百五十八條第三項ニ依リ其處分ヲ爲サシムルヲ以テ便利且相當トス　三四　九　一七七

鑛業條例

○鑛業條例第九章附則ノ例外ヲ除クノ外ハ鑛業人ハ其權利ノ成立カ日本

坑法ノ時代若クハ其以前ニ在ルト雖モ該條例實施ノ後ハ必ス之ヲ遵奉セサルヘカラス故ニ該條例制限ノ爲メニ事實損害ヲ負フトモ這ハ法律ノ結果ヨリ生スルモノナレハ他人ニ對シ之カ責任ヲ負ハシムルヲ得ス

○鑛業借區權ハ坑區內ニ於テ其地下ニ在ル鑛物ヲ採掘シ得ルニ過キス便ヲ其土地ノ所有權ヲ害セサル限度ニ於テ行使スルヲ得ルノミ借區許可ノ前後ヲ以テ所有權ト權利ヲ抗爭スルヲ得ス

○鑛業條例第二十五條但書ノ場合ニ於テ危險ノ有無及ヒ境域採掘ノ適否ヲ既別判定スルハ所轄鑛山監督署長ノ權內ニ屬シ司法裁判權ノ立入ルヘキモノニ非ス

○石油等ノ試掘ヲ爲サントスル者ハ鑛業條例第八條ノ規定ニ依リ鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘキモノナレトモ其賣買ニ付テハ別段ノ規定ナキヲ以テ同條ニ於テハ之ヲ認許セサルモノト解釋スルヲ相當トス

○鑛業條例第三十四條ハ特許證付與ニ關シ詐僞又ハ錯誤アリタルトキ適用スヘキモノニシテ正當ニ付與セラレタル特許證名前換ヲ請求スル如キ私權利ノ爭ニ適用スヘキモノニ非ス

○鑛物ノ試掘又ハ採掘出願中ニ在テ將來之ニ由リ得ヘキ權利ヲ賣買スル

二七	〇	一〇四
二七	〇	一〇四
二七	〇	一〇四
二八	四	六一
二九	二	九七

ハ各人ノ自由ニシテ管轄行政廳カ他日買得者ニ對シ特許證ノ名前書替ヲ許スト否トハ別問題ニ屬シ當事者間ニ於ケル賣買ヲ無效ト爲スヘキ理由ナシ

○特許ヲ得タル鑛物採掘權ハ單ニ其鑛物ヲ採掘シ得ルニ止マリ未タ採掘セサル鑛物其物ノ上ニ權利ヲ有スルモノニ非ス故ニ不動產上ノ物權ニ非ス隨テ之ニ關スル訴訟ハ被告人ノ普通裁判籍アル地ノ裁判所ニ於テ管轄スヘキモノトス

○鑛山監督ノ如キハ國權發動ノ一部ニシテ鑛業條例ハ公法ナリ故ニ同條例第三十三條ノ規定ニ依テ所轄監督署長カ其許可ヲ取消スコトハ則チ公法上ノ處分ニシテ私法上ノ行爲ニ非ス從テ此場合ニ於テハ公法上特ニ損害賠償ヲ許スノ規定アラサル限リハ之カ要求ヲ爲スノ權ナキモノトス

○鑛業條例第二十條第二項ハ採掘權ハ賣買讓與ノ意思表示ノミニテ移轉セサルコトヲ明瞭ナラシメタルニ過キス故ニ其契約ノ效力有無ハ此規定ノ關係スル所ニ非ス

○未定ノ權利ト雖モ之ヲ賣買ノ目的ト爲スハ法律ノ禁止セサル所ナルヲ以テ出願中ノ採掘權ト雖モ之ヲ賣買ノ目的物ト爲スコトヲ得ルモノト

二九	二	七三
二九	二	一〇五
三三	五	九八
三四	四	三九

國立銀行條例

○國立銀行ニ非スシテ手形條例ニ依ラサル流通手形ヲ發行スルコトヲ得ス　三四　四　三九

○銀行頭取カ國立銀行條例第八十六條ノ規定ニ違背シ金圓ヲ借入ルヽモ其貸借ハ有效ナリ　二六　一　一〇〇

○株主中ノ或者カ銀行ヲ補助スル目的ヲ以テ增拂ヲ爲スノ契約ハ國立銀行條例第二十九條同第百一條ニ關係ヲ有セス株主ト銀行トノ間ニ於テ自由ニ締結スルヲ得ヘシ　二八　四　二三

行政法

○府縣知事ニ於テ國庫ノ棄捐シタルモノヲ徵收シ其金額ヲ國庫ニ納入セサルトキハ不當ノ徵收不當ノ利得ト云フヘシ　三〇　四　三六

○職務執行ノ過失ヨリ生シタル損害ハ縱令過失者ノ明カナルトキト雖モ其人ノ一己人タル資格ニ對シテ請求スヘキモノニ非ス　二五　三　九

○渡船營業ハ公衆ノ便益ニ供スル業務ナルヲ以テ之ヲ保護スルノ旨意ヨリシテ該營業願書式ニ渡船場ノ距離ヲ掲載セシムルハ近接ノ場所ニ於テ同業ヲ爲サシメサルノ精神ナリト認メ普通ノ營業ト同視スヘキモノニ非スト斷定シタルハ不法ニ非ス　二六　一　一

○巡査カ職權內ニ於テ爲シタル行爲上ノ過失ニ付テハ國家責任ヲ免カルルコトヲ得スト雖モ苟モ職權內ニ於テ爲シタル行爲ニ非サル以上ハ猶ホ一己人ノ資格ヲ以テ爲シタル行爲ニ異ナルコトナク國家ハ其行爲ノ結果ニ付キ責任ヲ負ハス　二七　〇　三〇四

○一縣ノ令達ニ於テ河港堤防道路橋梁等ノ興廢變更ヲ要スルトキハ其關係村ノ承諾書等ヲ添ヘ出願スヘシトノ規定ハ之ニ準據セサル事ノミヲ以テ既成工事ノ興廢變更ヲ絕對ニ無效ト爲サシムヘキ制裁力ヲ有セス　二七　〇　四六〇

○土地ノ官民有區分ニ關スル査定ハ專ラ行政官ノ處分ニ屬スルカ故ニ行政官ニ於テ一旦民有ト査定スルモ爾後再調査ノ上以前ノ査定ヲ取消シ其土地ヲ官有ト爲スコトヲ得　二八　五　三九

○官廳若シハ公ノ役場ニ設備セル圖書ハ之ヲ訂正スルノ權ナキモノカ擅ニ增減加除スルモ其效ナシ　二八　五　四二

○同業者組合ノ規約中役員選擧ノ方法ヲ更ムルモ其全體ノ組織ニ變更ヲ來サヽル上ハ舊規約ニ基キ適正ニ選擧セラレタル組長ノ資格ハ其任期　二九　一　七二

中有效ナリ故ニ新規約ニ因ル組長ノ選擧ハ無效ナリ　二九　三　二〇

○磯漁場ノ區域ヲ定メ其海面ノ使用ヲ許否スルノ權ハ地方行政官ニ屬スルモノトス　二九　一〇　九八

○各人ハ他ノ各人ノ權利ヲ侵害セサル程度ニ於テ公衆ノ通行スヘキ村道ヲ道路トシテ其儘使用シ自己ノ生活行爲ノ各種ノ作用ヲ自由ニ行ヒ得ヘキ共同使用權ヲ有ス　三一　三　八五

○國領ノ海ハ公道公路若クハ舟筏ヲ通スル河川ト同シク各人ノ公共使用ニ供スルモノニシテ何人モ自由ニ使用シ得ルモノナリ故ニ或一部ノ人カ或漁業ノ爲メ區劃ヲ定メ專ラ之ヲ使用スルカ如キ共同使用ノ用方ニ反スル營業ニ付テハ行政廳ノ特許ヲ得サルヘカラス　三一　六　一

○國領ノ海面使用ニ關シテハ何人ヲ問ハス行政官廳ノ許可ヲ受ケ初メテ公然之ヲ使用スル一種ノ權利ヲ得ルモノニシテ其之ヲ許否スルハ專ラ行政官廳ノ職權ニ屬スヘキモノトス　三四　二　一

地方官官制

○地方官官制第十三條ニ依リ府縣ノ書記官カ知事ニ代リ其職務ニ屬スル事項ヲ處理スルハ知事ノ代理人トシテ之ヲ爲スニ非スシテ其府縣ノ代表者トシテ之ヲ行フモノトス　三四　九　一六八

高等官官等俸給令

○官吏ノ任命補職ハ辭令ノ交付ト電信ノ通告トヲ問ハス當該官廳ノ職務上行爲ニ依リ之ヲ其任命補職セラルヘキ本人ノ智識ニ達セシメタル時ニ非サレハ其效果ヲ生セス　三一　三　一

○官吏ノ任命補職ニ付テハ官報ハ止タ其掲載ノ年月日當該官廳ヨリ其辭令若クハ電信ヲ發送シタルコトヲ報告スルニ過キサルモノトス　三一　三　一

陸軍武官結婚條例

○陸軍軍人ニシテ結婚セントスル者ハ陸軍武官結婚條例ノ規定ニ依ラサルヘカラスト雖モ該條例ノ精神ハ軍人ノ配偶ヲ輕忽ナラシメサルニ過キス婚姻ノ有效無效ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス　二七　〇　四七三

明治五年第三百十七號布告

○明治五年第三百十七號布告ハ慶應三年丁卯十二月晦日以前ニ係ル金穀貸借ノ債權者ヲシテ其權利ヲ棄捐セシムルノ意ニ出テタルモノナリ　三一　六　三〇

明治六年第二百三十五號布告

○明治六年太政官第二百三十五號布告ハ官有民有ノ區別ナク總テノ社寺境内ニ於ケル樹木ニ關スル規則ナリ

二八　五　九八

明治六年第二百四十九號布告

○神社ノ管守者タル宮司ハ神社ノ寶物ヲ失ヒタルトキハ相當ノ手續ヲ盡シ之ヲ返還スルノ職分ヲ有スルモノトス然レトモ明治六年第二百四十九號布告ニ拘ハラス之ヲ左右スルノ權アリト云フニ非ス

二五　二　五四

○明治六年第二百四十九號布告及ヒ明治九年教部省第三號達ハ神官並ニ氏子總代ニ於テ濫リニ神社所屬ノ物件ヲ處分スルコトヲ豫防スルニ出テ普通ノ場合ニノミ適用スヘキモノニシテ土地收用法ニ依リ收用ヲ受ケタルカ如キ場合ニ適用スヘキモノニ非ス

三三　六　八

明治六年第二百六十三號布告

○明治六年第二百六十三號布告中婦女子相續ノ後ニ於テ夫ヲ迎ヘ又ハ養子致候ハヽ云々ノ規定ハ給祿華士族ノ爲メ家祿制度ニ關スル家督相續ヲ規定シタルモノナリ故ニ家祿制度ノ全廢セラレタル今日ニアリテハ士族ニ對シ適用スヘキモノニ非ス

三〇　八　三一

明治八年第二十三號布告

○明治八年第二十三號布告以前公共ノ海面ヲ所有セシ一私人ノ權利ハ同布告後總テ消滅シタルカ故ニ其布告ノ趣旨ニ基キ更ニ出願ノ上許可ヲ得ルニ非サレハ捕漁採藻等ノ爲メ海面ヲ專用スルヲ得ス

二九　一〇　九二

明治九年第六十七號布告

○明治九年第六十七號布告ハ其當時開墾中ニ係ル官有地ノ處分方法ヲ定メタルモノニシテ其前既ニ其處分ヲ終了シタル地所ニ關係ナキモノトス

三二　一　三七

明治十年第四十三號布告

○社寺ノ爲メニ金穀ノ借入等ヲ爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要ス此等ノ要式ヲ缺キタルモノハ無效ナリ

○明治十年布告第四十三號ハ社寺ニ於テ債務ヲ起ス場合及ヒ其地所建物若クハ什器ヲ抵當ト爲ス場合ノ規定ニシテ社寺ニ屬スル權利ノ行使ニ

二五　一　六四

關スル社寺ノ代表資格ヲ定ムルモノニ非ス〔同一判例二八年三卷一三七頁〕

○出訴期限經過後ノ債務ヲ承認スルハ新債務ヲ成立セシムルト同一ノ結果ニ歸着シ單純ナル管理行爲ト同視スヘキモノニ非サルカ故ニ寺院カ此承認ヲ爲ス場合ハ明治十年第四十三號布告ニ準據スヘキモノトス

○明治十年第四十三號布告ハ神社又ハ寺院カ其社寺附ノ地所ヲ抵當ト爲スニ付テハ其氏子又ハ檀家總代二名以上ノ連署ヲ爲サシムルヲ以テ取引上ノ要件ト爲シタルモノナリ故ニ氏子又ハ檀家ナキ社寺ハ該布告ノ主旨ニ從ヒ其社寺附ノ地所ヲ抵當ニ差入ルヽカ如キ處分行爲ヲ爲スコトヲ得ス

明治十年第六十六號布告

○明治十年第六十六號布告第三條ハ契約ヲ以テ利息ニ關スル何等ノ事項ヲモ定メサル場合ヲ指稱ス

明治四年四月四日太政官達

○明治四年四月四日太政官達中所謂蓄積ノ米穀トハ縱令納稅義務ノ一定シテ收入ノ期スヘキモノト雖モ未タ官ニ收入セサルモノハ之ヲ包含セサルモノトス而シテ該達ハ諸藩ヘ訓令シタル體裁ナレトモ右達ノ事項ニ必適セル行爲ニ付テハ當事者ノ一方カ私人ノ場合ニ於テモ亦適用セラルヽモノトス

明治十五年太政官第三號布達（明治十七年ヲ以テ改正）及同年農商務省第三號達

○民有ノ森林ニシテ風除森林等ノ名稱ニ依リ伐採ニ制限ヲ付シ來リタル慣習アルモノモ亦等シク法律上所有權ノ制限ヲ受ケタルモノナルヲ以テ其所有者ハ之ヲ遵守セサルヘカラス

○民有ノ森林中明治十五年太政官第三號布達及ヒ同年農商務省第三號達等ニ依リ行政處分ヲ以テ其伐採ヲ制限セラレタルモノモ亦法律ニ依ル所有權ノ制限ニシテ所有者ハ其制限ニ從ハサルヲ得ス

明治十七年太政官第十九號布達

○宗制ハ明治十七年太政官第十九號布達ニ基キ制定シタルモノナルヲ以

ヲ宗教上ニ於テハ法律タルノ效力ヲ有ス

明治十二年乙第三十九號同十七年乙第三十七號内務省達

○内務省明治十二年乙第三十九號同省明治十七年乙第三十七號達ハ社寺ノ所有物件中抵當ト爲スヘカラサルモノヲ保護スル趣旨ニ因ルモノナレハ其抵當物件ニシテ抵當ト爲シ得ヘキモノナル上ハ右達ノ手續ヲ履マサルモ無效トナラス

明治十三年布告第十八號同十四年内務省文部省達乙第五十四號

○明治十三年布告第十八號及ヒ明治十四年内務省文部省達乙第五十四號ハ公共ニ關スル經費其支出若クハ徵收方法議定ノ事ニ止マリ債務ヲ起スコト付テノ議決ヲ命スル法規ニ非ス

明治十四年内務省乙第三十三號達

○明治十四年内務省乙第三十三號達ノ願屆等ノ文詞中ニハ普通ノ訴訟行

二五　六　六五
二六　四　九四
二六　二　七九

爲ヲ包含セサルモノト解釋スルヲ相當ナリトス

（同上書）

明治十四年内務省達乙第三十三號ノ所謂社寺ノ願屆等トハ管轄行政官ニ對スル願屆等ノ義ニシテ社寺ノ權利伸暢ノ爲メ司法裁判所ニ訴訟ヲ提起スルコトヲ包含セス〔同一判例二八年三卷一三八頁〕

明治十五年八月内務省番外達

○明治十五年八月内務省番外達ノ但書ハ官有社寺ト民有地所在ノ社寺ヲ區別セス等シク其境内ノ樹木伐採ニ關シ適用シ得ヘキモノトス

○明治十五年八月内務省番外達第一條第二條ハ一丈以上ノ樹木ノ伐採ヲ禁シタルモノニシテ隨テ其樹木ノ處分ヲ禁シタルモノナレハ之ニ適合スル樹木ハ賣買ノ目的物タルヲ得ス

明治十六年七月内務省番外達

○明治十六年七月内務省番外達並ニ明治十九年十二月司法省訓令第三十九號ハ獨リ戸長若クハ登記官吏ヲ拘束スルニ止マラス一般人民モ亦之ヲ遵奉スヘキ義務アルモノトス

○明治十六年内務省番外達ニ「後見人カ幼者ノ不動産ヲ賣買讓與質入等

二八　五　九八
二八　五　九八
二八　五　四八
三〇　七　一九
二五　五　一〇〇

ヲ爲スニ付テハ其證書ニ親族ノ連署ヲ要ス」トアリ其親族ナル語中ニハ姻族モ包含シタルモノトス　二七　〇　五八

○親族會議ニ關與シタル者カ幼者ノ不動産賣買證書ニ連署スルニ非サレハ其賣買ハ無效ナリトスル法律ナク又慣例モナケレハ親族會議ニ關與セサル親族カ連署シタル契約證書ニ基ク賣買カ無效ト爲ルノ謂レナシ　二七　〇　五八

○明治十六年七月十八日内務省番外達ハ縣廳ニ對スル告達ニシテ固ヨリ法律ノ力ナク又其達中之ニ違背スル法律行爲ヲ無效トスル旨ノ制裁アルニモ非サレハ契約當事者カ之ニ違背スルモ直チニ其契約ヲ無效トスルヲ得ス　三〇　一〇　二七

○該内務省達ハ後見人及ヒ之ト法律行爲ヲ爲ス者ニ對シ未丁年者ノ不動産ヲ賣買スル等ノ場合ニハ必ス其契約證文ニ親族ノ連署ヲ爲サシムヘク若シ之ヲ爲サヽルトキハ未丁年者ニ於テ方式違背ヲ理由トシ之ヲ取消シ得ヘキコトヲ告達シタルモノニシテ即チ未丁年者保護ノ爲メ後見人ノ權限ヲ制限スル目的ニ出テタルモノナレハ或程度マテハ一般人民ニ於テ遵奉ノ義務アルモノト解釋スルヲ相當トス　三〇　一〇　二七

○明治十六年内務省番外達及ヒ同十九年司法省第三十九號訓令中所謂親族ノ語辭中ニハ其親族ノ遠近ヲ問ハス苟クモ血族姻族タルノ關係アリテ普通親族又ハ親類ト稱スルモノハ總テ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス　三一　一　二三

○明治十六年内務省番外達ニハ單ニ「親族連署」トアリテ其人員ヲ指定セサルニ依リ親族一名ノ連署ハ以テ該達ノ規定ニ適合セルモノト看做スヲ當然ノ解釋ナリトス　三二　一　二三

○後見人カ幼者ノ不動産ヲ賣却スル場合ニ關スル明治十六年内務省番外達ハ必スシモ其證書ニ親族ノ連署ナキモ親族ノ承諾アルヲ以テ足レリトスルノ趣旨ナリトス　三二　九　一三〇

○明治十六年内務省番外達ノ趣旨ハ未成年者所有ノ不動産賣却ニ付テハ其親族ノ承諾ヲ要スルモノト爲シタルニ過キスシテ賣渡證書ニ後見人ノ代表及ヒ親族ノ連署ヲ要スルモノト爲シタルニ非ス　三三　一　七二

明治十八年内務省甲第二十號達

○明治十八年内務省甲第二十號達ハ實體上有效ナル公證ノ存スル場合ニ適用シ得ヘキ法則ナリ

明治十七年兵庫縣丙第二百二十二號達

○明治十七年兵庫縣丙第二百二十二號達ハ地方行政上取締ノ爲メニ設ケタル規定ニ過キスシテ之ニ違背シタレハトテ直チニ之ヲ以テ内外人間ノ契約ヲ無效トスヘキモノニ非ス

明治七年司法省第二十四號達

○行政裁判ノ上訴ハ大審院之ヲ審理スルノ權ナシ行政裁判所開設以前司法裁判所ニ於テ内閣ノ裁可ヲ經テ下シタル行政裁判ト雖モ亦然リ

○宮司ニ對スル訴訟ハ内閣ノ裁令ヲ經ヘキモノトス

明治九年司法省第三號達

○神社ノ管守者タル宮司ハ神社ノ寶物ヲ失ヒタルトキハ相當ノ手續ヲ盡シ之ヲ返還スルノ職分ヲ有スルモノトス然レトモ明治六年第二百四十九號布告ニ拘ハラス之ヲ左右スルノ權アリト云フニ非ス

明治十年司法省丁第四十六號達

○民法施行以前ニ生シタル婚姻養子養女ノ取組若クハ離婚離縁等ニ付テハ明治八年太政官達第二百九號ニ關スル明治十年司法省丁第四十六號達ハ遵由スヘキ效力ヲ有スルモノナリ

三四	五	四四	
二四	一	二〇三	
二五	三	三	
二五	二	五四	
三四	一〇	一〇二	

○明治十年司法省丁第七十五號達ハ裁判官ノ注意ヲ要スル爲メ證書解釋法ノ原則ヲ訓示シタルニ過キス從テ之ニ依リ原判決ヲ攻擊スルハ其當ヲ得ス

明治十一年司法省丁第九號達

○訴訟ノ原案出訴期限ノ支配ヲ受ケサルモノト雖モ執行期限ハ滿五个年ト爲スコト裁判上ノ慣例ナリ

○明治十一年司法省丁第九號達ハ裁判確定後五个年ヲ經過スレハ債務者ハ既ニ其執行ヲ爲シ了レルモノトノ推定ヲ以テ裁判ヲ爲シ來レル公認ノ慣例ナルヲ以テ一般之ニ遵據スヘキモノトス

明治十五年司法省丁第四十四號達

○明治十五年八月二十二日司法省丁第四十四號達ハ受刑者ノ貸借賣買等ニ付キ其財産管理人カ裁判所ノ許可ヲ得スシテ爲シタル行爲ヲ無效トスルノ法意ニ非ス唯之ヲ理由トシテ其管理行爲ノ取消ヲ求メ得ルニ過キス

二九	一〇	五四	
二五	六	八九	
三一	八	五五	
三三	四	四七	

明治五年大藏省第百十八號觸

○明治五年大藏省第百十八號觸ハ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ナルヲ以テ遵由ノ效力ヲ有ス

明治十一年大藏省乙第七號達

○明治十一年大藏省乙第七號達第四項ハ質取人ニ於テ質地ノ租稅ヲ未納セル場合必ス質地所有者ニ通知シタル上ニ非サレハ公賣スルヲ得ストノ規定ニ非ス單ニ質地所有者ヨリ納稅セシムルモ亦不可ナシトノ意ニ解スルヲ相當ナリトス

土地收用法

○前記ノ事項ニ付テハ明治三十三年法律第二十九號土地收用法ノ規定モ舊法ト異ナラス（舊土地收用法第二十條判例參照）

明治二十二年法律第十九號土地收用法（明治三十三年法律第二十九號土地收用法ニ依リ廢止）

（參照）

土地收用法第二十三條ノ所謂「其土地ニ對シ特別ニ關係ヲ有スルモノ」トハ其土地ノ地上ニ關係ヲ有スルモノヽ謂ニシテ地下ニ在ル鑛物採掘ノ如キハ之ニ包括スルモノニ非ス

土地收用ハ委員會ノ裁決ニ因ル强制的手段ニ限ラス土地ノ所有者及ヒ關係人ノ協議モ亦收用ノ一方法ナリトス

土地收用法第八條第一項ニ依リ土地賣買ノ合意ヲ爲スハ管理行爲ナルカ故ニ當然後見人ノ權限ニ屬ス收用法以外ノ契約ニ依リ土地ノ賣買ヲ爲スハ處分行爲ナルカ故ニ後見人ノ獨斷ニテ爲スコトヲ得ス

土地收用協議會ノ關席者ヨリ申立タル異議ヲ排斥セシノミノ審査會ノ裁決ハ土地收用法第十五條ノ補償金額ニ關スル裁決ニ該當セサルヲ以テ之ニ對スル不服ハ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

土地收用法ニ依リ收用セラレタル地所ニ付テノ補償金額ニ關スル請求權ハ同法ノ規定ニ遵據スヘキモノニシテ民法上ノ理由ニ基キ之ヲ主張スルコトヲ得ス

土地收用法第十五條第二項ニ從ヒ裁判所ヘ出訴スル請求ハ一旦審査委員會ニ提出シテ其裁決ヲ經タルモノニ限ル

土地收用法第十八條ニ所謂土地ノ分割トハ一筆即チ一番號ノ土地ノ分割ニ限ラス連續セル數筆ノ土地ニシテ事實上一團ノ地域ヲ爲スモノヽ分割ヲモ包含ス

土地收用補償金ハ收用者ニ於テ其土地ヲ收用セサル以前ニ於テ之カ支拂ヲ爲スヘキモノタリ故ニ被收用者ニ於テ土地收用審査委員會ノ裁決シタル金額ニ不服ヲ唱ヘ其裁定額ト增加額トヲ併セテ訴求シ其訴訟中ト雖モ被收用者カ裁定額ノミノ支拂ヲ請求スルニ於テ直チニ之ヲ支拂ハサルヘカラス

土地收用法發布以前ニ於テ公用土地買上規則ニ依リ買上ケラレタル土地ニ對シテハ土地收用法ヲ適用スルコトヲ得ス

土地收用法ニ依リ土地ヲ收用スル起業者ハ同法ニ依リ土地所有者及ヒ關係人ニ對シ其損害ヲ補償スル外別ニ民法上損害賠償ノ責ニ任スヘキモノニ非ス

土地收用法ニ所謂收用スヘキ土地ノ區域トハ公益工事ニ必要ナル區域ニ外ナラス而シテ同法第二十條ニ依リ所有者ノ請求ニ因リテ收用スル土地及ヒ建物ハ其工事ニ必要ナルモノニ非ス

同法第二十條ニ依リ所有者カ土地若クハ建物ノ全部收用ヲ請求シタル場合ニ於テ之ニ關シテ土地收用審査委員カ爲シタル裁決ハ同法第十五條ニ所謂補償金額ニ關スル裁決ニ外ナラサルヲ以テ之ニ服セサル者ハ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

明治二十二年法律第十九號土地收用法第二十條ニ依ル全部收用ノ請求ニ關シテ土地收用審査委員會ノ與ヘタル裁決ハ同法第十五條第二項ニ所謂補償金額ニ關スル裁決ナルヲ以テ之ニ服セサル者ハ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

登記法（地所及ヒ建物ノ登記ニ關スル規定ハ明治三十二年二月法律第二十四號不動產登記法ニ依リ廢止）

（參照）

登記請求ノ訴起リ裁判所ヨリ假處分命令ヲ發シタル後ニ受ケタル身代限ヲ理由トシテ此登記ヲ拒ムコトヲ得ス

登記法第一條ノ所謂賣買中ニハ條件附即チ買戻條件附ノ賣買モ包含スルモノトス

質權ヲ有スル者ニ對シ其質權存在中小作契約ヲ設定シタル者ハ登記法ノ所謂第三者ニ非ス故ニ縱令質權ノ登記ハ銷除セサルモ其質權ニシテ解放セラレタルコト明確ナル上ハ其小作權モ

三一　一〇　三三
三三　六　一三六
三四　三　五二
三四　三　五二
三四　四　九
二四　一　一四
二五　一　一二六

從テ消滅スルモノトス

登記ノ事由欄內ニ解除條件ノ如キ契約ヲ記入スルモ第三者ニ對シ記入ノ效力ヲ有スルモノトス既ニ其效力アル以上ハ之ヲ知ラサルノ點ヲ以テ之ヲ無效視スルヲ得ス

登記法ハ單純ノ建物ノミナラス之ニ附着混同セル動產ニシテ之ヲ取離セハ其建物ヲ傷フカ又ハ建物タル效用ヲ失フ物ハ即チ建物ノ一部ヲ爲スモノナルヲ以テ固ヨリ有效ニ之ヲ登記スルヲ得ルモノトス而シテ其然ルト否トハ事實ニ付キ當事者ノ申立ニ拘ハラス裁判官ハ全權ヲ以テ之ヲ判決スルコトヲ得

賣買ノ登記ヲ爲スニ際シ買戻ノ約定アルモ之ヲ記入セサルニ於テハ登記法第六條ノ制裁ニ依リ第三者ニ對抗シ得サルヲ以テ必ス之ヲ併記セサルヘカラス

相手方ニ於テ干與セス登記官吏カ爲シタル地所所有名義ノ取消ニ關スル救正ハ登記法第十二條ニ依リ登記官吏ニ對シテ抗告スヘキモノトス

公證取消ノ方法ニ付テハ一定ノ法規ナキヲ以テ縱令抹消ノ事由年月日等ノ詳記ナキモ之カ爲メ直チニ其抹消ヲ無效ナリト斷スルヲ得ス

判決ヲ以テ當事者ニ登記手續ヲ言渡スハ登記法第十條ニ所謂裁判所ノ命令ニ該當ス

海上ノ水面ハ登記法第一條ニ所謂地所ノ名稱中ニ包含セス故ニ登記ノ目的物ト爲スヲ得ス

山林ノ登記ニ付テハ特ニ立木ヲ含蓄スル旨記載スヘキ例規ナシ故ニ山林ノ名稱中ニ立木ヲ包含セルモノト認メタルハ違法ニ非ス

訴訟當事者ノ合意ノ有無ニ關セス又取引カ登記法發布以前ニ係ルニモセヨ既ニ其當事者ノ一方ニ於テ登記ノ必要ヲ認メ之ヲ他ノ一方ニ請求スルトキハ裁判所ハ登記法ニ照シ請求ノ當否ヲ判斷スヘキモノトス

二五　五　一四
二五　五　一七
二六　一　八五
二六　二　一四〇
二八　三　八三
二九　三　一三七
二九　八　四〇
二九　九　一六
二九　九　二六
三〇　六　四〇

登記ハ其物件ノ所有權者ト直接ノ權利移付者ノ間ニ爲スヘキモノナリ故ニ行政官廳ヨリ拂下ヲ受ケタル地所ヲ買取リタル者ハ直接ニ其官廳ニ對シ登記ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノトス

抵當權者カ法律ノ規定ニ從ヒ登記ヲ受ケタルトキハ爾後其登記カ自己ノ關與セサル他人ノ犯罪行爲ニ因リテ取消サルヽモ之ヲ當初ヨリ適法ニ登記ヲ受ケサルモノト同一視シ登記法第六條ヲ適用スルヲ得ス

舊登記法第四十條ハ未タ登記セサル所有權ヲ明確ナラシメ他日ノ紛議ヲ避クル爲メニ登記ヲ許シタルモノニシテ登記ヲ爲スト否トハ所有者ノ隨意ナリ即チ登記ヲ爲サヽレハ絶對ニ第三者ニ對シ所有權ヲ主張スルコトヲ得ストノ法意ニ非ス

正當ノ所有者ヨリ買得シタル地所ト雖モ登記ヲ經タルニ非サレハ舊登記法第六條ノ法意ニ依リ其賣買ハ賣主ニ對スルノ外何人ニ對シテモ絶對ニ無效ナリ

舊登記法第四十條ハ未タ登記セサル所有權ヲ明確ナラシメ他日ノ紛議ヲ避クルノ趣旨ニシテ登記ヲ爲サヽレハ絶對ニ第三者ニ對シテ所有權ヲ主張スルコトヲ得ストノ法意ニ非ス

商標條例（明治三十二年法律第三十八號商標法ニ依リ廢止）

（參照）

商標條例第二條第三號ニ「登錄出願以前ヨリ他人ノ使用スル云々」トアルハ登錄出願前皆テ同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シタル者アリシコトヲ謂フニ非スシテ出願前ヨリ引續キ出願ノ當時迄之ヲ使用シタル者アルコトヲ意味スルモノトス

商標ノ稱呼彼是同一ナルニ依リ其商標ヲ同一又ハ類似ノモノト爲スニハ其商標ヨリ生スル自然ノ稱呼タラサルヘカラサルヲ以テ其圖形及ヒ字體等ヲ審査セサルヘカラス

舊商標條例第二條第三號ニ所謂他人トハ帝國ノ法權ニ服シ又ハ外國トノ條約ニ依リ同條例ノ保護ヲ受クル者ヲ指シタルニ外ナラス

詐欺ノ所爲ヲ以テ商標ヲ受ケタル犯罪ハ司法裁判所ニ於テ處分ス而シテ其商標ノ有效無效ハ其裁判ヲ以テ決スヘキモノナレハ特許局ハ之ヲ審決スルノ職權ヲ有セス

出訴期限規則（民法施行法ニ依リ廢止）

（參照）

出訴期限規則第一條ハ商人互ニ販賣スル商品ノ賒掛代金ニ當行スヘキ期間ニシテ商業上ノ元資ニ供スル物件ノ如キハ直チニ商品ヲ以テ目スヘカラサレハ該法條ニ包含セサルモノトス

凡ソ義務ノ存在ヲ明認シタル場合ハ出訴期限ヲ適用スヘカラサルコト勿論ナルヲ以テ此立證アルニ拘ハラス出訴期限ヲ適用スルニハ必ス其理由ヲ說示セサルヘカラス

債權者自體ノ性質カ商人相互ノ賒掛代金ナルトキハ現今ノ債權者カ商人ニ非サルモ仍ホ其出訴期限ヲ適用スヘキモノトス

出訴期限規則ハ義務者カ義務ノ不履行ヲ明カニ認メタル場合ニハ適用スヘキモノニ非ス隨テ判決執行ノ期間モ義務者カ執行ヲ受ケサル旨ヲ自供シタルニ於テハ五个年ノ期限ヲ適用スルニ由ナシ

出訴期限經過ノ主張ハ訴訟ノ進行中何時ニテモ爲スヲ得ヘシ之ヲ訴訟法上ノ妨訴ノ抗辯ニ擬シテ辯論以後ニ爲スヲ得スト論スルヲ得ス

講金掛戻義務履行ノ擔保トシテ講金取得者ヨリ講會ニ對シテ利子等ノ事ニ付キ別段ノ契約ヲ爲スモ其性質通常ノ貸借ニ非ス然ルヲ直チニ出訴期限法ヲ適用シタルハ違法ノ裁判タルヲ免

カレス

出訴期限ヲ經過シタル債權ハ義務者ヲシテ辨濟ノ擧證ヲ免カレシメ法律ノ推定上既ニ其義務ヲ畫了シタルモノト爲ス故ニ債權者ヨリ自然義務ニ化シタルモノト論スルヲ得ス

出訴期限規則ノ精神ハ單ニ其期限經過ノ一事ヲ以テ當然債務ヲ免除スルモノニ非ス債務者カ歲月彌久ノ爲メ辨濟ノ證明ヲ爲ス能ハスト主張スル場合ニ於テ法律上救援ノ路ヲ與フルモノナリ

出訴期限規則第一條ニ所謂商人互ノ賣掛金ハ商業ノ同一ナルト否トニ拘ハラス總テ商人相互間ニ於ケル商取引ヨリ生スル賣掛金ヲ指稱ス

出訴期限規則ノ利益ヲ援用スルモノハ其所定ノ期限ヲ經過シタルコト及ヒ既ニ其義務ヲ辨濟シタルコトノ申立ヲ爲スヲ要ス

出訴期限規則ヲ援用スル者ハ既ニ債務ヲ辨濟シタルモ數多ノ歲月經過ノ爲メ其事實ヲ證明シ能ハサル旨ヲ陳述スルヲ必要トス

出訴期限規則第二條ニ所謂一个年期迄ノ奉公人トハ普通年期奉公人ト稱スル者ニ限リ藝人ト興行人トノ雇傭契約ニ於ケル被雇傭人ノ如キモノヲ包含セス

單ニ勸解ヲ出願シタルノミニテハ出訴期限規則第四條ノ所謂出訴云々ニ該當セス

府縣會議員選擧規則（明治三十二年法律第六十）（四號府縣制ニ依リ失效）

（參照）

府縣會議員選擧規則第四十二條第五項ニ謂フ所ノ餘事トハ同第二十三條ニ指示シタル事項ノ外一切ヲ包含スルモノナリ從テ（右選擧仕候也）又ハ（縣會議員投票）ノ文字ヲ記載シタル投票ハ無效ナリ

證券印稅規則（明治三十二年法律第五十）（四號印紙稅法ニ依リ廢止）

（參照）

印紙不貼用ノ罪期滿免除ニ係リ而シテ訴訟前相當ノ印紙ヲ貼用シタル證書ハ普通ノ證據力ヲ有ス

印紙貼用ノ不足アル證書ハ民事裁判所ニ於テ受理スヘキモノニ非ス

時效ニ依リ其處罰ヲ免脫シタルトキ其處罰ヲ受ケサル責任ヲ以テ當事者ニ歸スルヲ得ス則チ原裁判所カ證書ノ不足印紙ヲ相當ニ補充シタルモノト認メ之ヲ採用シタルハ違法ノ裁判ト云フヲ得ス

公訴權ノ消滅ニ屬シタル無印紙ノ證書ニ相當印紙ヲ貼用シ提出シタルトキハ其責罰ヲ受ケサルノ理由ヲ以テ直チニ排斥ノ理由ト爲スコトヲ得ス

證券賣渡ニ對シテハ印稅規則第二類ヲ適用スヘキモノトス

公債證書ノ預リ書ニ壹錢ノ印紙ヲ貼用シアルモノハ直チニ證券印稅規則違犯ノ證書ト云フヲ得ス何トナレハ其證書ト其枚數ヲ列記シタル一ノ預リ書ニシテ金高記載ナキ諸物品預リ證文ト同視スルノ外ナキヲ以テナリ

金高相當ノ印紙ヲ貼用セサル證書ハ裁判上受理スヘカラス

犯則ノ證書カ法律上既ニ公訴期滿免除ニ係ル上ハ特ニ刑事上ノ處分ヲ經サルモ更ニ適當ノ印

紙貼用シアルニ於テハ直チニ之ヲ採用スルモ妨ケ無キモノトス

甲者カ乙者ノ交付ヲ受ケ所持シタル證書ヲ乙者カ破毀シタルニ因リ原形ノ如ク作製シテ之ヲ受取ランコトヲ要求シタレハ乙者ハ之ニ對シテ該證書ヲ作リタルモ未タ交付セサル前ニ之ヲ破リテ捨テタルヲ甲者カ拾ヒ取リタリト抗辯セリ爾キ爭ハ其證書ニ記載シアル契約ノ成否權利ノ有無ニ在ラスシテ證書其物カ既ニ甲者ノ所持ニ屬シタルヤ否ヤニ在リ乃チ訴訟物ハ證書其物ニシテ證書中ノ契約其物ニ非ス而シテ裁判所ハ甲者カ所論ノ眞實ナルコトヲ判定スルニ止マリテ契約ノ實體ヲ判斷シタルニ非サルトキハ縱令其證書ニ印紙ノ貼用ナキモ證券印税規則ニ違背シタル證書ヲ受理シテ證具ニ供シタルモノト云フヲ得ス

金高記載アル契約書ニ相當印紙ヲ貼用セスシテ授受シ未タ其處罰ヲ受ケサルニ之ヲ裁判上證據トシテ採用シタルハ證券印税規則ニ違背シタル不法ノ裁判ナリ

官吏ノ資格ヲ以テ官廳ノ爲メニ債務ヲ約スルニ際シテハ證券印紙ノ貼用ヲ要セス官名ヲ用ユルノ外官印若クハ廳印ヲ押捺スルヲ常トス乃チ茲ニ官名ノ肩書アルノミニテ私印ヲ押捺シ證券印紙ヲ貼用シタル證書アルトキハ之ヲ官縣ノ債務ナリト判定スルヲ得ス仍ホ其債務ヲ縣債ナリト主張セントスル者ハ相當長官ノ委任若クハ其他適法ノ方法ニ依テ之カ立證ヲ爲スノ責任ヲ有スルモノトス

印紙ノ貼用ニ不足スル證書ヲ採テ裁判ノ材料ニ供シタルハ亦不法タルヲ免カレス

證券印紙貼用ナキ證書ハ裁判上採用スヘキモノニ非ス從テ其寫ヲ採テ判斷ノ資料ニ供シタルハ違法ナリ

證書授受ノ當時差入人ニ於テ相當ノ證券印紙ヲ貼用セス其後ニ至リ受取人カ刑事上ノ處分ヲ受ケス不足印紙ヲ加貼シ消印ヲ施シタル證書ハ裁判上受理スヘキモノニ非ス

二六	二	二三一	
二六	二	二三八	
二六	二	二八七	
二六	二	三〇一	
二六	二	四五七	
二八	三	三五	
二八	四	八六	

證書ニ貼附スヘキ證券印紙ハ規則ノ改正アルニ拘ハラス其證書成立當時ノ規則ニ由リ貼附スヘキモノトス

印紙ノ過貼ハ證書不受理ノ理由トナラス

證券印紙貼用不足ノ場合ニ於テ檢事カ之ヲ時效ニ係リタルモノトシテ不起訴ノ處分ヲ爲シ違犯者ニ於テ其不足部分ヲ貼用シタルトキハ民事訴訟上證據トシテ受理シ得ヘキモノトス

檢事カ不起訴ノ處分ヲ爲シタルトキハ證券印税規則第四條ニ所謂處罰ヲ受ケタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

契約書中記載ノ金員カ契約主要ノ事項ニ非サル場合ハ單ニ金高記載アルノミニテハ證券印税規則第二條所定ノ契約書ニ該當セス

證書ニ證券印紙ヲ貼用セサリシ事實アルモ既ニ其公訴ノ期滿免除ニ係ルヲ以テ處罰ヲ受ケス之ニ相當印紙ヲ貼用シ裁判所ニ提出シタルトキハ裁判所カ之ヲ採用シテ判斷ノ資料ニ供スルモ不法ニ非ス

證券印税規則第二條ニ所謂遺金物證文及ヒ跡式讓證文ハ孰レモ遺言ノ如キ單獨行爲ニ關スル證書ヲ云フニ非スシテ相對ノ意思表示即チ契約ニ關スル證書ヲ指稱ス

證券印紙ノ如キハ證書提供ノ際貼用ノ有無ヲ調査スレハ足ルヘキモノニシテ爭訟ノ證具ト爲スヘキモノニ非サレハ之ヲ證書ノ寫ニ記載シ置ク必要ナシ隨テ其寫ニ之カ記載ナキヲ以テ原本ニ印紙ノ貼用ナキモノト推定スルコトヲ得ス

證券印税規則違犯ノ證書ト雖モ期滿免除ニ係ルトキハ提出者ニ於テ印紙ヲ貼用スレハ有效ナリトス

證券印紙ハ證書ノ原本ニ貼用スヘキモノニシテ其謄本ニ貼用スルコトヲ要セス

二九	二	五一	
二九	八	七七	
二九	一〇	一〇六	
二九	一〇	一〇六	
三〇	三	七五	
三〇	六	二三	
三〇	九	六七	
三一	六	一九	
三一	六	九五	
三一	九	六二	

明治十七年布告第十一號證印劵紙規則ハ明治三十二年法律第五十四號印紙稅法ニ因リ廢止セラレタルヲ以テ該規則第四條ノ制裁ハ全ク廢止セラレタルモノトス故ニ無印紙若クハ印紙貼用不足ノ證書帳簿ト雖モ民事裁判上證據トシテ採用スルモ妨ケナキモノトス

無印紙又ハ貼用印紙不足ノ證書類ト雖モ民事裁判上之ヲ受理スルニ妨ケナシ

印紙稅法施行後ニ於テ相當ノ證劵印紙貼用ナキ證書ハ裁判上證據トシテ採用スヘカラサルモノトシ之ヲ排斥シタルハ印紙稅法ヲ不當ニ適用セサルモノナリ

證劵印稅規則ニ違背シテ相當ノ印紙ヲ貼用セサル證書ニテモ明治三十二年法律第五十四號印紙稅法施行ノ後ハ裁判上證據トシテ採用スルヲ妨ケス隨テ新法實施前ニ於テ裁判所カ印紙ヲ貼用セサル證書ヲ採用シタリトテ同法實施後ハ其違法ヲ更正スルニ及ハス

證劵印稅規則ハ印紙稅法ヲ以テ改正セラレ舊法第四條ノ制裁ヲ廢止シタルカ故ニ無印紙又ハ貼用不足ノ證書帳簿ト雖モ民事裁判上裁判所ハ任意之ヲ採用スルコトヲ得

米商會所條例（取引所法ニ依リ廢止）

（參照）

米商仲買人ニ證據金ヲ付與シテ期日米ノ買入ヲ委任スルハ米商會所條例ニ從ヒ之ヲ買入レシムルニ在ルヤ自ラ明カナルヲ以テ縱令證據金ニ不足ヲ生シ仲買人ハ條例違反ノ取引ヲ爲シ其處罰ヲ受クルモ委任事務ヲ履行シタリト云フヲ得ス

米商會所ニ於ケル賣買ノ取引ハ必ス仲買人ニ依ラサルヘカラス故ニ其帳簿記載ノ有無ニ由テ事實ヲ認ムルハ當然ナリ

米穀取引所ニ於テ仲買人ニ對シ即時證據金ノ納入ヲ命スルハ特別規定ニ基ク臨時ノ處分ナルニ依リ特ニ其通知ヲ爲スヲ必要トス故ニ其納入ヲ怠リタルヲ理由トシテ停止處分ヲ爲シタルカ爲メ之カ取消ヲ求ムル爭訟起リタルトキ其納入ノ通知ヲ爲シタル事實ハ取引所ニ於テ之ヲ立證スルノ責任アリ

日本坑法（鑛業條例ニ依リ廢止）

（參照）

日本坑法第三章第十款第五項ノ所謂「利害ノ關係ヲ有スル者」トハ制限的ノ文字ナキヲ以テ坑區其物ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ノミニ適用スヘキ法意ナリト解釋スルヲ得ス而シテ不正ノ方法（詐欺）ニ出テタルヲ理由トシ借區名義ノ變換ヲ求ムル訴ハ同項ノ支配ヲ受クヘキモノニシテ司法裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノトス

日本坑法第十七款ニ「試掘開坑或ハ通洞ヲ企ルニハ舍屋鐵道河流及道路ノ如キ其害ヲ受クヘキ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ」云々トアル法意ハ鑛業ヲ爲サント欲スルモノカ之ヲ企圖スル場所即チ試掘開坑等ヲ出願シテ其許可ヲ得タル時ニ其坑區內ニ舍屋鐵道等既設シアルニ於テハ度ヲ計リ之ヲ避クヘシトノ事ニテ其權利ノ取得以後新タニ設置セラレタル舍屋鐵道等迄之ヲ包含シタルモノニ非ス

代人規則（民法施行法ニ依リ廢止）

（參照）

本人ニ代リテ原告トナリ復タ之ヲ代言人ニ委任スルモ法律ノ禁スル所ニ非ス

明治六年第二百十五號布告代人規則第五條ノ規定ハ專ラ注意ニ出テタルモノニシテ委任狀ノ授受ナキカ爲メ其代理契約ヲ無效ト爲スノ意ニ非ス

版權條例（明治二十六年法律第十六號版權法ニ依リ廢止）

（參照）

本件係爭ノ高等小學讀本ニ讀史餘論中ノ文章ヲ轉載シタルハ全ク事實ノ參考文章ノ軌範ト爲スニ外ナラサルコト既ニ明確ナレハ之ヲ明治二十年第七十六號版權條例ニ照スニ其第一條ノ所謂圖畫ヲ彫刻シタルモノニ非ス又同第十九條ニ依リ僞版ヲ以テ論スヘキモノニモ該當セス

爲替手形約束手形條例（明治二十三年法律第五十九號ニ依リ廢止）

（參照）

爲替手形約束手形條例第三十五條ノ要求ノ文字ハ必ス裁判所ニ出訴シテ請求ヲ要ストノ意味ニ非ス相對上ノ請求ヲモ其中ニ包含スルモノトス

國立銀行ニ非スシテ手形條例ニ依ラサル流通手形ヲ發行スルコトヲ得ス

手形條例第三十九條ハ本來爲替手形ノ場合ヲ規定シタルモノナリト雖モ其第四十五條ノ明文ニ據ルトキハ約束手形ニモ之ヲ適用セサルヘカラス爲替賣金ノ如キハ約束手形ノ性質ニ於テ適用ナキモノトスルモ約束手形ニシテ既ニ其第二十七條ニ從ヒ期限ニ請求シテ手形ノ效用ヲ保チタル場合ニ在テハ其第三十九條ニ依リ手形振出ノ日ヨリ起算シテ三ヶ年間要求ノ權アリトノ規定ヲ遵守スヘキモノトス

三〇	一〇	九一	
二八	〇	二八八	
二五	三	三三	
二六	一	一〇〇	
二七	〇	四〇五	

府縣會規則（明治三十四年法律第六十四號府縣制ニ依リ失效）

（參照）

土地臺帳記名者ニシテ其所有權ヲ他人ニ移轉スルモ其移轉登記ヲ爲サヽル間ハ尙ホ土地臺帳記名者タルノ故ヲ以テ依然其土地ニ對スル地租ヲ納ムルノ義務アリ從テ納租ニ附隨スル府縣會議員選擧權ヲ持續スルモノトス

金穀貸借請人證人辨償規則（民法施行法ニ依リ廢止）

（參照）

特別ノ保證契約アル場合ニハ明治八年第百二號請人證人辨償規則ヲ適用セサルモ違法ノ裁判ニ非ス

明治八年第百二號布告金穀貸借受人證人辨償規則第一條中「本人身代限リ濟方申付候上不足相立候節ハ云々」トアルハ本人即チ主タル借務者ニ資力限リ濟方ヲ爲サシメ尙ホ不足アル場合ニ於テ保證義務ヲ履行セシムル時期ノ到來スヘキコトヲ指示シタルニ過キス然ルニ原裁判所カ右布告第一條ヲ援引シ主タル債務者ニ對シ强制執行ヲ爲シ不足ヲ生シタルノミニテハ足ラス尙ホ其上ニ家資分散ノ宣告アリシ後ニ非サレハ保證人ニ對シ義務ノ履行ヲ訴求スルコトヲ得スト判斷シタルハ右布告ノ解釋ヲ誤リタルモノナリ

逃亡トハ啻ニ所在不分明ナルノミナラス本人ノ歸來スル意思ナキコトヲ想像シ得ル場合ヲ意味スルモノトス

金穀貸借請人證人辨償規則第二條ニ所謂「借主逃亡又ハ死亡跡相續人無之時」トハ借主逃亡

二九	二八	二五	三二
二	〇	四	二
八五	七二	五二	八六

シテ跡相續人ナキ時又ハ死去シテ跡相續人ナキ時ト云フ意義ナレハ單ニ逃亡ノ事實ノミニ依リ直チニ請人證人ニ辨償ノ義務ヲ負ハシムヘキモノニ非ス

土地賣買讓渡規則（明治十九年法律第一號登記法ニ依リ失效）

（參照）

明治十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則第一條ハ一筆ノ土地ヲ分割賣買セントスルトキノ手續ヲ示シタルニ止マリ之ヲ爲サヽルモノハ其公證ヲ無效トスル旨趣ニ非ス

明治十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則ハ相續人カ事實相續ヲ爲セハ其相續財產タル土地ニ付キ未タ地券書替ノ手續ヲ了セサルモ其所有權ヲ他ニ移轉シ得ルノ規定ニシテ地券書替ヲ以テ所有權移轉ノ要式ト爲シタルモノニ非ス

建物書入質規則（民法施行法ニ依リ廢止）

（參照）

明治八年第百四十八號布告建物書入質規則第三條ハ公證ヲ受クルコトノ何モノタルヲ指示シタルモノニシテ公證ノ要件ヲ規定シタルモノニ非ス

建物書入質規則第三條ノ公證ヲ受ケタル證書ニシテ同規則第五條ニ背キ番號ノ記入ナク又其圖面ニ割印ノ押捺ナキモノハ有效ノ公證ヲ經タルモノニ非ス

明治六年第十號布告（民法ノ實施ニ依リ失效）

（參照）

明治六年第十號布告ニ「金穀貸付證文ノ內返濟期限無之歟又ハ出來次第返却可致等ノ證書取置後日訴出ルニ於テハ裁判申渡シヨリ十二个月之內濟方可申付事」トアルニ承審官カ無期限證書ノ訴ニ對シ「速カニ返辨ス可シ」云々ト言渡タルモ不法ト云フヲ得ス何トナレハ返濟ヲ命スルハ承審官ノ職權內ニ屬スレハナリ特ニ「速カニ」ト云フ文字ヲ明示シタルハ即チ十二月以內ノ日ヲ定メタルモノナリ

明治六年第十號布告ハ金穀貸借ノ場合ニ適用スヘキモノニシテ單純ナル預金ノ訴訟ニ適用スヘキ規則ニ非ス

明治六年第十八號布告（民法施行法ニ依リ廢止）

（參照）

明治六年第十八號布告地所賣入書入規則第一條以下ニ掲ケタル事項ハ普通ノ事例ヲ示シタルモノニテ未來ノ義務ノ擔保ニ係ル書入ノ如キモ亦同規則ノ範圍內ニ屬スルヲ以テ之ヲ公認スルハ當然ナリ

明治六年第十八號布告地所書入質入規則第四條ハ質地ノ年限ヲ三个年ニ限ルヘキ旨訓示シタルニ止マリ其期限ヲ經過シタルモノハ質地ノ效ヲ失フヘシトノ制裁ヲ付シタル法意ニ非ス

明治六年第十八號布告第九條ハ町村戶長ノ奧書竝ニ割印アリテ始メテ公證ノ效ヲ生スルモノナルコトヲ規定シタルモノナリ

明治六年第二十一號布告（民法施行法ニ依リ廢止）

（參照）
明治六年第二十一號布告ハ私生子ノ認知ニ關スル規定ニシテ嫡出子ノ認知ヲ求ムル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

明治八年第六號布告（民法施行法ニ依リ廢止）

（參照）
連帶義務ノ契約ハ縱令連帶者中ニ失踪者アリテ三十六个月ノ期間ヲ經過セサルモ素ヨリ分身一體ノ責ヲ負フヘキ性質ノモノナレハ現在債務者カ其義務ヲ負擔スルハ普通ノ法理ナリ而シテ明治八年第六號布告ハ他ニ連帶債務者ノナキ場合ノ失踪者ニ關スル處分法ニシテ連帶契約ノ場合ニモ準用スヘキ規則ニ非ス

明治八年第六十三號布告（民法施行法ニ依リ廢止）

（參照）
明治八年第六十三號布告ハ金穀貸借ノ場合ニノミ適用スヘキモノニシテ貸借以外ノ原因ニ基ク債務關係ニ適用スヘキモノニ非ス
明治八年第六十三號布告中「右連印中失踪又ハ死亡シテ相續人ナキ者等有之トモ其借用シタル金銀其他ノ總額ヲ其連印中現在ノ者ヘ償却可申付」トアルハ連名ノ借用證文ニシテ分借ノ記載ナキモノハ總テ連帶義務ナルコトヲ明確ナラシメタルモノニシテ失踪又ハ死亡ノトキノ如キ例外ノ場合ヲ規定シタルモノニ非ス
明治八年第六十三號布告ハ例外ノ場合ヲ規定シタルモノニ非スシテ反テ其義務ノ連帶ナルコトヲ明確ナラシメタルモノトス

明治八年第六十六號布告（明治二十二年法律第九十五號ニ依リ廢止）

（參照）
明治八年第六十六號布告第二十六條ハ船長又ハ擔任者ニ其怠慢ヨリ生スル責任ヲ負ハシメタルモノニシテ船主ノ責任ヲ免脫シタルニ非ス

明治八年第百四十八號布告（民法施行法ニ依リ廢止）

（參照）
建物書入契約ハ圖面ト證文トニ戸長ノ公證ヲ受クルハ一ノ要件ナリ
甲乙兩村ニ跨ル地所ノ公證ハ兩村戸長ノ公證ヲ經サルヘカラス故ニ若シ乙村戸長ノ公證ノミニテ甲村戸長ノ公證ナキ場合ニハ甲村ニ屬スル地所ハ公證ナシト論スルヲ得レトモ乙村ニ屬スル地所ノ公證ヲモ併セテ無效ト爲スコトヲ得ス

明治九年第六十號布告（民法施行法ニ依リ廢止）

（參照）
債務者ニ於テ債權讓渡ヲ許諾シ更改義務ヲ確認シタル事跡明カナル以上ハ別ニ形式ニ關スル證書ノ書換ヲ爲ス要ナキヲ以テ明治九年第九十九號布告ハ絕對的ニ制裁ヲ與フヘキモノニ非ス
債權證書ニ讓與承諾證ヲ添附スルモ紙幣同樣ニ融通スヘキモノニ非ス若シ之ヲ有效ナラシメ

シニハ證書ノ雲換ヲ爲サヽルヘカラス

明治十年第五十號布告（民法施行法ニ依リ廢止）

（參照）

明治十年第五十號布告ハ他日ノ紛議ヲ避クル爲メ確實ニ證書ヲ作成スヘキコトヲ注意スルノ趣旨ニ出テタルモノニシテ自署又ハ代書ノ附記ナキ證書ヲ裁判上當然無效ト爲スノ精神ニ非ス

明治十年第五十號布告ニ反スル證書ト雖モ直チニ之ヲ無效トスヘキモノニ非ス

明治十年第五十號布告ハ契約者ヲシテ成ルヘク其氏名ヲ自書セシムヘキ事ヲ規定シタルニ止マリ自ラ署名セス又ハ代書人ヲシテ雲記セシメサル證書カ全然無效タルヘキコトヲ規定シタルモノニ非ス

明治十五年第六十號布告（明治十九年法律第一號登記法ニ依リ廢止）

（參照）

對手人失踪ノ爲メ一時勸解ノ願下ヲ爲スハ訴訟中止ノ場合ト同視スヘキモノニ付キ此場合ニ於テハ明治十五年第六十號布告ニ據リ爲シタル公證猶豫願ハ消滅スヘキモノニ非ス

日本國大不列顛國修好通商條約

（明治二十七年日英通商航海條約第二十條ニ依リ廢止）

我邦人ヨリ英國人ニ對スル反訴ハ日英間通商條約第七條ノ主旨ニ從ヒ英國領事廳ニ起訴スヘキモノニシテ我邦裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノトス

明治二十三年法律第百四號（人事訴訟手續法ニ依リ廢止）

（參照）

一ノ訴ヲ以テ離婚及ヒ復籍ヲ請求スルモ之ヲ訴ノ併合ナリト云フヲ得ス從テ明治二十三年法律第百四號第三條ノ規定ニ違背スルモノニ非ス

復籍ハ離縁ノ結果ナレハ兩者相俟テ一箇ノ請求ヲ爲スモノニシテ二箇ノ請求ニ非ス故ニ此兩箇ノ事項ヲ一ノ訴ヲ以テ請求スルモ明治二十三年法律第百四號第三條ニ違背スルモノニ非ス

遺産相續登記ノ取消竝ニ地所賣買登記ノ取消ヲ請求スル訴ハ明治二十三年法律第百四號第三條但書ニ該當セサルヲ以テ離縁ノ訴ト併合ヲ許スヘキモノニ非ス

養子離縁ヲ目的トスル訴訟ヲ養父ノ住所ニ非サル地ノ裁判所ニ於テ受理審判シタルハ明治二十三年法律第百四號ノ規定ニ違反セル不法アリ

明治二十三年法律第百四號第三條ハ養子離別及ヒ離婚請求ノ如キ二事件ヲ併合シテ訴フヘカラサルコトヲ規定シタルニ止マルモノナレハ裁判所ハ之カ辯論及ヒ裁判ヲ併合スルヲ得スト雖モ便宜上其裁判ノミヲ併合シテ之ヲ爲スモ不法ニ非ス

復籍ハ離別ヨリ生スル當然ノ結果ニ外ナラス故ニ離別ト復籍トヲ叙列シタリトテ之ヲ以テ訴ノ併合ト云フコトヲ得ス

復籍ハ離婚ヨリ生スル當然ノ結果ナルヲ以テ離婚請求ト復籍請求トハ獨立セル二箇ノ請求ニ非ス故ニ一ノ訴ヲ以テ此二箇ノ請求ヲ爲スモ明治二十三年法律第百四號第三條ニ違反スルモノニ非ス

明治二十三年法律第百四號第七條ノ規定ニ基キ更ニ期日ヲ定メタル爲メ生スル所ノ費用ハ本案ノ勝敗ニ拘ハラス其費用ヲ生セシメタル者ヲシテ負擔セシムヘキモノタリ

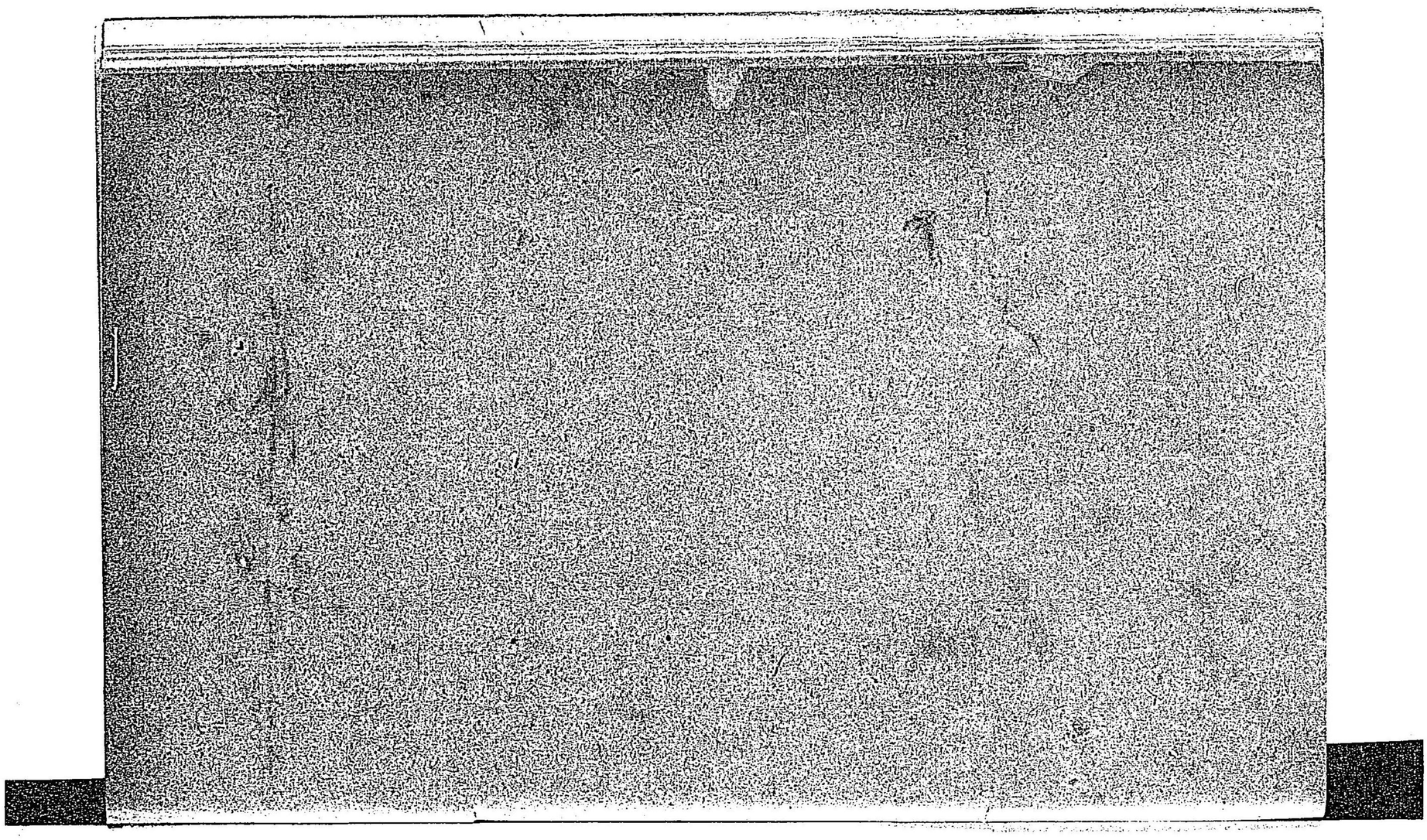
明治六年司法省布達第四十三號（民法ノ實施ニ依リ失效）

三一　八　三六

（參照）

利子記載ナキ證書ノ契約ハ絶對的ニ利子ヲ附スヘキモノニ非スト云フヲ得ス權利者カ請求セシ日ヨリ之ヲ念レハ法律上利子ヲ附スヘキモノトス然リト雖モ起訴以前ニ遡リ證書差入日ヨリ利子ヲ附スヘキモノニ非ス返濟ノ催促ヲ受ケタル日ヨリ利息ヲ生スヘキハ法則ノ規定スル所ナリ

三二　二　六九

三三　五　一四

二六　二　三六九